



福井県英語研究会事務局

事務局長 伊 藤 美智子 (足羽高校)

1. 第1回役員会

令和6年5月2日(木)、福井県国際交流会館で令和5年度会計監査および令和6年度第1回役員会を開催し、総会に提案すべき議事を審議しました。

2. 総会・講演会

令和6年6月12日(水)、ユーアイふくい多目的ホールで福井県英語研究会総会および講演会を開催しました。総会では全ての議案が承認を得ました。

講演会の概要は以下の通りです。

講師：向後 秀明 氏 (敬愛大学英語教育開発センター長、国際学部国際学科教授)

演題：「英語教育改革完成年度の指導と評価の振り返り

—今後の改善に向けた課題にどう対応すべきか—

参加人数：100名

3. 会員名簿発行

令和6年8月、令和6年度会員名簿を発行しました。平成22年度から会員名簿作成業務を広報部においており、平成28年度より小学校の英語活動担当者も掲載しています。年度当初の大変忙しい時期に御尽力頂いた島田敏弘広報部長をはじめ、広報部には深く感謝申し上げます。

4. 福井県英語教育研究大会

令和6年11月1日(金)光陽中学校にて開催されました。以下がその概要です。

研究主題：「自分の考えや気持ちを伝え合い深め合う生徒の育成」

内 容：公開授業、全体会(研究過程報告、授業研究協議、助言等)

授 業 者：中島 佑介 教諭

パネリスト：金沢学院大学 教授 上田外史彦 氏

参加人数：140名

5. 全英連東海北陸地区英語教育協議会

令和6年12月3日(火)に石川県にて開催され、福井・石川・富山・愛知・岐阜・静岡・三重の7県から各代表が参加しました。本県からは、竹本俊穂会長が出席されました。今年度石川県で行われた東海北陸ブロック英語弁論大会の振り返り等を行いました。

6. 第2回役員会

令和7年1月30日(火)、国際交流会館にて第2回役員会を開催し、令和6年度事業・決算中間報告、令和6年度事業計画等について審議しました。なお、岩崎賞につきましては、今年度は応募がありませんでしたので、選考会はいたしませんでした。



県中教研英語部会

事務局長 多田 朱里 (三国中学校)

今年度も「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組みました。福井県英語教育研究会福井大会では、144人の小中高の教員等が参加し、盛況のうちに研究大会を終えることができました。

本年度の県中教研英語部会の活動の概要は以下のとおりです。

1 5月31日(金) 第1回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

令和5年度事業報告・令和6年度事業計画、令和6年度福井県中学校教育研究集会
令和6年度東海北陸公立学校英語教育研究会三重大会、英語セミナー、各ブロックの情報交換

2 8月1日(木) 令和6年度福井県中学校教育研究集会(オンライン開催)

発表者 松田 洋佳 教諭(足羽第一中学校)、齊藤友希乃 教諭(坂井中学校)

3 8月8日(木)、9日(金) 令和6年度東海北陸公立学校英語教育研究会三重大会

参加者 西 健 校長、鈴木三千弥 校長、広瀬 泰司 校長
高山 大輔 教諭、竹澤 沙貴 教諭、河合 創 教諭

4 11月1日(金) 福井県英語教育研究会 福井大会

- ・研究主題 自分の考えや気持ちを伝え合い深め合う生徒の育成
～言語活動を軸とした単元・授業デザインの工夫～
- ・会場 福井市光陽中学校
- ・内容 公開授業、全体会、記念講演
- ・授業者 中島 佑介 教諭
- ・記念講演 講師 上田外史彦 教授(金沢学院大学)
演題 これからの英語教育を展望する

5 11月22日(金) 第2回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

令和6年度東海北陸公立学校英語教育研究会 三重大会の報告
令和6年度福井県英語教育研究会の報告、各ブロックの情報交換

6 2月4日(火) 第3回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

令和6年度事業報告・令和7年度事業計画、各ブロック間の情報交換

7 その他

英語セミナー 夏季休業中に福井・鯖丹・南越・若狭ブロックで実施

令和6年度中教研部会郡市部長名及び活動報告

部	部長名	活 動 内 容
福 井 市 部	鈴木三千弥 (社 中)	<p>令和6年11月1日(金)に、光陽中学校で福井県英語教育研究大会(福井大会)を開催しました。ご協力いただいた県英研竹本会長はじめ各関係機関、および先生方、ご参加いただいた方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。</p> <p>今大会では、本当に必要なことは何かを精査し、業務改善の視点からも様々な改善や簡略化に取り組みました。詳細は、第2回県中教研郡市部長会(11月)資料や、本誌県英研西副会長の「発刊に寄せて」の中でご確認ください。</p> <p>【令和6年度活動報告】</p> <p>4月11日 第1回中教研福井ブロック英語部会主任会(社中) 令和6年度の福井県英語教育研究大会(福井大会)へ向けた 第1回研究推進委員会(以下、福井大会研究推進委員会)</p> <p>6月10日 第1回福井ブロック内授業研究会(足羽中) 第2回福井大会研究推進委員会(附属中)</p> <p>6月27日 福井ブロック中学校教育研究集会(社中) 発表:足羽第一中学校</p> <p>7月 5日 プレ授業(上田教授による助言) 第3回福井大会研究推進委員会(光陽中)</p> <p>7月 9日 第2回福井ブロック内授業研究会(森田中)</p> <p>7月24日 第4回福井大会研究推進委員会(光陽中)</p> <p>7月29日 2024 福井市 English サマーセミナー(アオッサ) ※今年度で事業終了</p> <p>8月 1日 福井県中学校教育研究集会(三国中よりオンラインで実施)</p> <p>8月 6日 第5回福井大会研究推進委員会(社中)</p> <p>8月 8日 第48回東海北陸公立中学校英語教育研究会(三重大会)に参加</p> <p>8月22日 令和6年度福井県小学校教育研究会夏季研修会 「直山木綿子氏講演会」(県立大)</p> <p>10月 1日 プレ授業(高木指導主事による助言) 第6回福井大会研究推進委員会(光陽中)</p> <p>10月11日 第7回福井大会研究推進委員会(光陽中)</p> <p>10月23日 第8回(最終)福井大会研究推進委員会(社中)</p> <p>11月 1日 福井県英語教育研究大会(福井大会)開催(光陽中)</p> <p>2月28日 第2回中教研福井ブロック英語部会主任会(社中) <予定></p>

部	部長名	活 動 内 容
吉 田 郡 部	山内 清美 (永平寺中)	<p>吉田郡では、例年のように、以下の指導主事訪問日の公開授業をお互いに見合っ て、授業づくりのアイデアを交換し合った。授業後には気づいたことを共有して、 授業者も参観者も更に良い授業ができることを目指した。英語科教員が1～2人とい う小規模校2校にとっては、授業のアイデアを共有できる良い機会になっている。 小学校の授業（4年、5年、6年）も参観した。</p> <p>6 / 1 2 松岡中学校 3年 Learning SCIENCE in English 2年 Let's Talk 2 ていねいなお願い</p> <p>7 / 3 上志比中学校 2年 Unit 4 Homestay in the United States</p> <p>10 / 1 0 松岡中学校 2年 Unit 5 Universal Design 1年 Unit 8 A Surprise Party</p> <p>11 / 1 3 永平寺中学校 3年 Learning CIVICS in English</p> <p>また、吉田郡は福井ブロックに所属しているので、福井市の中学校で開催され た授業研究会にも参加した。</p>
坂 井 ブ ロ ッ ク (あ わ ら 市 ・ 坂 井 市)	加藤 修 (丸岡中)	<p>今年度も昨年度に引き続き、本ブロックでは日ごろの授業実践および授業改 善を重要と考え、言語活動を中心とした授業研究を軸とした継続的な研究を前 提に、次の三つの柱を中心に据えて活動を行ってきた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 意見考えを求めるためのワークシートの作成と共有 (2) 授業で行う言語活動の、指導と評価 (3) 英語教員の働き方改革</p> </div> <p>(1) については、地区内や学校内で授業の進め方やワークシートの共有を 行った成果が出ており、ワークシートにある発問をもとにした授業改善が進め られている学校も見られた。また、各校の授業改善や指導案作成の負担軽減等 を目的として、指導主事訪問等での研究授業の学習指導案やそこで行われた言 語活動の内容を共有した。今後は、さらにこのような状況が拡大されていくよう に、情報共有や効果の検証等を続ける。</p> <p>(2) でも、地区内の学校同士での情報共有が、各校の指導と評価の充実や テストの実施効率の向上につながっている状況が多く見られる。特に、定期テ ストの作成方法、パフォーマンステスト（リスニング、やり取り、発表、ライ ティング）の実施方法については、改善が進められている。今後も、このよう な状況が持続できるように、共有や検証を続ける。</p> <p>(3) に関しては、授業準備やテストについて改善が進められていることが 見て取れるが、オンライン会議を継続して行っていくこと、業務改善の例を共 有することとおして、さらに負担軽減を図るとともに、生み出された時間の 有効活用についても議論を重ねたい。これまで行われてきた業務の精選を図 り、指導および評価が生徒にとっても教員にとってもより良いものとなるよう に、議論を重ねていく。</p>

部	部長名	活 動 内 容
坂井ブロック (あわら市・坂井市)	加藤 修 (丸岡中)	<p>このような活動を持続させていくために、今年度もオンライン会議（英語科主任会）を月一度程度、開催してきている。なお今年度は、当地区が地区中教研および県中教研の発表を担当していたので、その内容検討はオンラインで行ったが、地区の研究会は参集型とした。オンラインに比べて議論に広がりや深まりが見られ、何よりも実際に顔を合わせることで雰囲気良かったことから、ある一定の効果はあったと考えている。今後も、フィジカルで行う会議の機会を伺いたい。</p> <p>英語セミナーについては、地区内生徒への還元の種類や教員の働き方改革などに鑑み、今年度以降は実施しないこととしている。他地区もそのような流れになってきているようであり、当地区も今後の方針を変更する予定はない。</p> <p>今後も、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度、その資質・能力を育成するための指導と評価の改善に努めるべく、先述の三本柱を中心に据えて研究と修養を続けていく。</p>
大野市部	広瀬 泰司 (開成中)	<p>○研究主題 英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実</p> <p>4 / 1 1 第1回大野市学校教育研究会（学びの里「めいりん」） 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換</p> <p>5 / 8 第2回大野市学校教育研究会 分科会長会、分科会予算配分等 (結とびあ)</p> <p>6 / 7 中学校教育課程奥越ブロック集会（大野市内中学校）</p> <p>7 / 3 0 第4回大野市学校教育研究会（学びの里「めいりん」） 小中高合同研修</p> <p>8 / 1 県中学校教育課程福井県研究集会（リモート開催）</p> <p>1 0 / 1 勝山市授業研究会参加（勝山南部中学校）</p> <p>1 1 / 6 大野市学校教育研究会英語部会研究会（開成中学校） 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析</p> <p>1 2 / 5 大野市授業研究会（開成中学校）</p> <p>3 学期 大野市授業研究会（陽明中学校）</p> <p>通 年 大野高校互見授業（大野高校） 大野高校教員による英語授業の参観と指導方法の協議</p>

部	部長名	活 動 内 容
勝 山 市 部	前田 宏治 (勝山南部中)	<p>ここ数年の流れを引き継ぎ、研究主題や重点研究事項を以下のように設定し、実践を進めた。</p> <p>=研究主題= 『単元を貫く問いを柱にした指導の改善と工夫』</p> <p>=重点研究事項= ①教科書の Unit 毎に設定されている Point of view の効果的な指導 ②書くこと・話すことについて、自分の言いたいことを適切に正確に output するための指導 ③教科書を有効に活用するための、効果的な発問の工夫</p> <p>1 勝山市学校教育研究会英語部会年間活動</p> <p>○4月19日(金) 勝山市教育研究会英語部会 於：成器西小学校 ・研究主題の検討 ・部会の活動計画と役割分担</p> <p>○5月 2日(木) 授業づくり研修会 於：教育会館 ・市教委主催研修会 ・小中連携について意見交換</p> <p>○6月 7日(金) 奥越中教研 於：陽明中学校 ・公開授業と授業研究会 ・指導と評価についての意見交換 ・群支部長会からの伝達</p> <p>○7月30日(火) 大野市学校教育研究会 於：開成中学校 ・大野市教育研究会英語部会研修会への参加(2名)</p> <p>○8月 1日(木) 県中学校教育課程研究集会 オンライン ・県中学校教育課程研究集会への参加(1名)</p> <p>○8月28日(水) 勝山市教育研究会英語部会 於：勝山南部中学校 ・第2学期中間考査問題検討</p> <p>○10月 3日(木) 勝山市教育研究会英語部会 オンライン ・授業検討会指導案検討</p> <p>○10月 8日(火) 勝山市教育研究会英語部会 於：勝山南部中学校 ・公開授業と授業研究会</p> <p>○10月24日(木) 25日(金) 於：各学校 ・勝山市第2学期中間考査共通問題実施</p> <p>○12月25日(水) 授業づくり研修会 於：教育会館 ・市教委主催研修会 ・小中連携について意見交換</p> <p>1月下旬 授業研究に関わる意見交換会 2月中 授業研究会と今年度の振り返り</p>

部	部長名	活 動 内 容
勝 山 市 部	前田 宏治 (勝山南部中)	<p>3月下旬 授業づくり研修会 於：教育会館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教委主催研修会 ・小中連携について意見交換 <p>通年 公開授業参観 於：各学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事訪問日の公開授業を中心に、授業を参観 <p>2 今後の取り組み</p> <p>小中高を通して指導の連続性・一貫性を高めるため、小中連携、中高連携への取り組みを続けた。またコロナ渦前に取り組んでいた、市教育研究会で自主的に行っていた授業研究会も再開することができた。そのような地道な活動を続けることで、授業力や生徒の英語力向上につながると考える。</p>
鯖 江 市 部	酒井 一史 (鯖江中)	<p>研究テーマ「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質、能力を育成するための指導の改善と充実」のもと研究実践に取り組んだ。実践にあたっては、5領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通したコミュニケーションの資質・能力のバランスのとれた育成をすること、また、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うことを重視した指導法について、研究を推進した。小学校で英語に慣れ親しんでいる生徒が増えてきたことを受け、学校種間の学びの接続がより円滑なものとなるよう、小中連携に重点を置き、小中それぞれの研究会に小中教員が参加し、児童生徒の英語力の状況把握や授業改善の情報交換、それぞれの段階で身につけたい英語力や指導法について協議した。</p> <p>(1) 研究実践・小中連携</p> <p>第1回 鯖江市英語授業研究会 令和6年10月22日(火) 東陽中学校 丸田 文保 教諭 Susanna Aponte (ALT) 3年 Unit4 Be Prepared and Work Together N</p> <p>第2回 鯖江市英語授業研究会 令和7年1月22日(水) 河田小学校 小竹 亮 6年 Unit8 My Best Memory</p> <p>小中合同の研究授業参観、研究会を実施。小中の教員が合同で英語指導に関する研究協議およびICT機器の活用状況、児童・生徒の英語使用状況についての情報交換を行った。</p> <p>(2) 丹南ブロック英語セミナー (各中学校で実施) 事務局より提供されるプログラムを用い、7月や夏季休業中に各校で開催した。</p>

部	部長名	活 動 内 容
鯖江市部	酒井 一史 (鯖江中)	<p>鯖江市の小中学校で導入している学習アプリ「Qubena」を朝の学習活動や家庭学習に活用し、学習内容を定着させている。授業においては、タブレットの機能を活用した授業実践を進め、教員はICTを活用した授業展開、生徒は意見発表のための補助資料作成など、英語使用における補助ツールとしてタブレットを活用する力が身につけてきている。今後も扱う資料や場面設定、目的等を大事に扱い、様々な視点から生徒に問いかけるようなやりとりを中心とした授業を推進することで、即興でも英語でやりとりしようとする態度の育成を図っていく。また、教科書の扱いにおいては、書かれている、描かれている内容以外に、そこから推測できることや心情等について考えたり、やりとりの話題にできるような使い方を進め、読み物や資料、登場人物に興味をもたせたり、生徒の知識が広がるような授業改善を引き続き行っていく。</p>
丹生郡部	林 淳子 (朝日中)	<p>丹生郡英語部会は、郡（越前町）内4校の英語教員で構成されている。本年度は、県中教研英語部会の研究テーマに基づいて、各校で工夫して授業づくりに取り組み、郡英語部会で授業づくりについて研究協議を行った。併せて、理論と実践の往還を旨に、県教育総合研究所主催の教科別研修、県小学校教育研究会外国語活動・外国語研究部会夏季研修会、県英語教育研究大会等に積極的に参加するとともに、6月、10月～11月の期間中、郡内小・中学校の英語活動・英語授業をお互いに見合うことにより授業力の向上を図ってきた。また、通年、中高一貫教育を進める丹生高校とも連携している。</p> <p>【おもな活動】</p> <p>4月15日（月） 第1回丹生郡英語部会 ・英語部会の年間計画について ・英語セミナーについて</p> <p>5月 7日（火） 第2回丹生郡英語部会 ・授業づくり ・指導案検討会</p> <p>7月～9月 英語セミナー実施（各中学校での開催）</p> <p>8月 1日（火） 丹生郡英語研究会研修 （県教育総合研究所教科別研修中英に参加で代替）</p> <p>10月16日（水） 第3回丹生郡英語部会 ・授業づくり ・夏季に参加した各種研修の振り返り及び伝達事項</p> <p>11月1日（金） 県英語教育研究大会（福井市光陽中学校）参加</p> <p>2月（予定） 第4回丹生郡英語部会 ・第3回郡支部長会の報告 ・令和6年度英語セミナー報告 ・令和7年度英語研修の参加について</p>

部	部長名	活 動 内 容
丹 生 郡 部	林 淳子 (朝日中)	<p>(公開授業)</p> <p>5月27日(月) 朝日中学校公開授業 2年2組 伊藤 明里 教諭 Unit 2 Food Travels around the World</p> <p>6月 7日(金) 越前中学校授業参観 2年1組 堀田 翼 教諭 Unit 2 Food Travels around the World</p> <p>6月12日(月) 織田中学校授業参観 3年B組 笹川 源也 教諭 Unit 3 Animals on the Red List</p> <p>11月11日(月) 織田中学校授業参観 1年A組 小山 美奈 教諭 Unit 9 Think Globally, Act Locally</p> <p>11月12日(火) 城崎小学校授業参観 5年 吉田 恵梨 教諭 外国語 Unit 6 At a restaurant</p> <p>11月14日(木) 宮崎中学校 3年A組 内藤 元彦 教諭 Unit 5 Legacy for Peace 2年A組 谷野 優 教諭 Unit 6 Research Your Topic</p> <p>11月18日(月) 朝日中学校授業参観 2年3組 水野 俊子 教諭 Unit 5 Universal Design</p>
越前市・南条郡・今立郡部	網田 友紀 (武生第二中 坂口分校)	<p>1 活動概要</p> <p>授業研究会は年3回行われ、ALTも含め、全英語科教員が1回以上公開授業、研究会に参加し、授業力向上を図っている。南越ブロックの研究授業は細案を作成することになっているのだが、単元を見通した指導計画を作成することを目的に、ブロック内で指導案形式を統一した。授業者、参観者ともにわかりやすい形式になったと好評である。</p> <p>今年度、英語セミナーは南越地区内中学校7校の2年生が越前市文化センターに集まり、ALTが企画、主導した英語を使ったゲームやダンスを行った。授業ではなかなかすることができない活動を他校生や他校のALT、JTEと共にできたことは生徒、教員共に意義のある活動となった。</p> <p>今年も2、3学期の定期考査を共有化し、各学校で考査問題の作成、検討、その後、ブロック内教員全員での検討会を参集型で行った。この検討会は評価問題・評価基準の検討を通し、作問力、授業力向上の実践的な研修の場となっている。</p> <p>南越地区は令和8年度に県英語教育研究大会南越大会を控え、その研究が始まっている。夏休みには信州大学酒井英樹教授を講師に、「自分の思いや考えを伝え合いながら、自分の考えを深めていく生徒の育成～教科書本文のメッセージを大事にした単元構想～」をテーマに学習会を行った。11月の福井大会にはできるだけ多くの教員が参加するよう呼びかけ、10名以上の教員が参加した。研究主任を中心に、主任会で研究方針を決定し、いよいよ各校で研究実践を行う。来年度は新しい教科書を使って研究実践を積み重ね、研究大会に備える。</p>

部	部長名	活 動 内 容
越前市・南条郡・今立郡部	網田 友紀 (武生第二中 坂口分校)	<p>2 活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月16日 第1回英語科主任会 (武生二中) ・ 5月14日 第1回授業研究会 (武生五中 遠藤光彦教諭 参加者19名) ・ 7月26日 南越ブロック英語科夏季研修会 (あいぱーく今立 参加者25名) ・ 8月19、21、22日 南越ブロック英語科学習会 (武生三中、万葉中、越前市文化センター 参加者のべ33名) ・ 8月22日 南越ブロック中学校英語セミナー (越前市文化センター、3校は別日開催) ・ 10月22日 第2回授業研究会 (武生三中 三國寿之教諭 参加者22名) (同時開催 第2回英語科主任会) ・ 11月25日 第3回授業研究会 (南越中 近澤 朋教諭 参加者13名) ・ 12月24日 南越ブロック英語科学習会 (越前市文化センター 参加者のべ37名) 第3回英語科主任会 (越前市文化センター) ・ 2月28日 第4回英語科主任会 (武生二中)
教 賀 市 部	浜上 千恵 (角鹿中)	<p>教賀市英語部会では、本年度『小中接続出前授業』グループと『授業改善検討』グループの2つに分かれて研究を進めてきた。</p> <p>1 活動概要</p> <p>(1) 「小中接続出前授業」と指導案検討</p> <p>これまでは、進学する中学校区に分かれて英語の出前授業を行ってきた。本年度は小中接続事業の一環として、市内すべての英語科教員が同じ指導案を作成し、別の校区の小学校へ授業に行くことにした。</p> <p>部員全員で作成する指導案は、いろいろなアイデアに富んでおり、中学校の授業で行っているコミュニケーション的な内容を取り入れたため、児童も大変活発に活動に取り組んでいた。</p> <p>(2) 「授業改善」についての研究</p> <p>本年度は、定例会においてすべての部員から、現在進めている授業での改善点や工夫点を報告してもらった。その後、授業改善グループだけで、生徒の苦手なパートを分析し、それを克服するドリルや表現問題を作成して共有し合った。</p> <p>※本年度は、これまで実施していたALTによる「クリスマスキャロル」や「英語セミナー」については実施しなかった。理由は、今年、新しく来日したALTがほとんどだったためである。これからも生徒の意欲や英語力を高めていく活動はキープしつつも、ALTや教員の働き方を改革していけるような内容を吟味していきたい。</p> 

部	部長名	活 動 内 容
敦賀市部	浜上 千恵 (角鹿中)	<p>2 活動実績</p> <p>4月15日 第1回部会 年間活動計画等協議及び役割分担</p> <p>5月20日 第2回部会 授業研究にむけて</p> <p>6月17日 第3回部会 英語力向上の取組</p> <p>10月21日 第4回部会 出前授業指導案検討会・SASA対策作成</p> <p>11月18日 第5回部会 出前授業指導案検討会・SASA対策</p> <p>1月15～28日 第6回部会 小中接続出前授業開催</p> <p>2月19日 第7回部会 本年度の反省とまとめ 来年度への課題と提言</p>
三方郡・三方上中郡部	百田 忠嗣 (三方中)	<p>美浜中学校、三方中学校、上中中学校では、美方高校への連携クラスにおいて、美方高校教員による乗り入れ授業や集中講義などを行っている。連携クラスでは、高等学校での英語学習への橋渡しを念頭におきつつ、目指す生徒像を共有しながら、文法指導や言語活動などをバランスよく行った。また、高校1年生が来校し、中学生と交流したことで、両者にとって刺激を受ける機会となり、学びが深まった。</p> <p>10月1日には4町（美浜・若狭・おおい・高浜）7校が参加する中学校教科教育研究会の東ブロック（美浜・若狭）の研究授業を上中中で行った。また、校区内の小学校の授業を参観し、小中の学びのつながりについて考える機会をもった。小中の教員同士が授業づくりについて研修し、中学校での英語学習への円滑な移行について学ぶことができた。</p> <p>次年度も美方高校との連携や町内の小学校との連携していきたい。それに加え、教科書が改訂されることから、中学校間の連携にも力を入れ、教材開発や単元構想をともに考えたい。</p> <p>【令和6年度活動報告】</p> <p>5月 中高一貫教育連携クラス年度初め打ち合わせ会議 三方中、美浜中に美方高校職員による授業開始</p> <p>6月 第1回中高一貫研究委員会</p> <p>9月 三方中、美浜中に美方高校職員による授業再開</p> <p>10月 嶺南4町中学校教科教育研究会</p> <p>12月 連携クラス教科担当打合会</p> <p>3月 第2回中高一貫研究委員会</p>

部	部長名	活 動 内 容
小 浜 市 ・ 三 方 上 中 郡 部	仲野比佐代 (高浜中)	<p>本年度は、中学2年生を対象に若狭ブロック英語セミナーを実施した。</p> <p>R5年度は、ALTが様々なワークショップを提供し、生徒の反応も大変良かったが、指導者からは、「生徒が英語で話す機会が少なかった」「簡単な表現しか使っていない」という声があった。その反省を踏まえ、今年度は、ALTのプレゼンテーションを参考に、最終的には生徒がプレゼンテーションを行う表現活動を取り入れた。募集期間が短かったこともあり、参加生徒数は少なかったが、表現のレベルとしては非常に意欲的に高いものにチャレンジすることができた。</p>
	窪田 朋亮 (上中中)	<p>〈活動概要〉「若狭ブロック中学校英語セミナー」</p> <p>日時：令和6年8月2日（火）9:00～11:45</p> <p>会場：小浜市立小浜第二中学校</p> <p>指導者：県内ALT 9名、福井大学より1名、JTE 7名、養護教諭1名</p> <p>参加生徒：13名（中2）</p> <p>内容：①ALTによるワークショップ ②表現活動</p>

県高教研英語部会・県高文連英語部会

代表理事 伊藤 美智子

1. 令和6年度高教研・高文連英語部会役員

部会長 竹本 俊穂（足羽高等学校長）
副部会長 磯野 和之（藤島高等学校教頭）
代表理事 伊藤 美智子（足羽高等学校教諭）

※ 高教研英語部会は、加盟校英語科主任の先生が理事となっています。

庶務 水木 毅（足羽高等学校教諭）
会計 水木 毅（足羽高等学校教諭）
事務局 足羽高等学校

〒918-8155 福井市杉谷町44

Tel：(0776) 38-2225 Fax：(0776) 38-2290

2. 予算執行

〔高教研〕 本部より英語部会に160,500円頂き、県英語教育研究大会の運営費や、『会報』の印刷費に充てました。

〔高文連〕 本部より英語部会に187,000円頂き、高校英作文コンテスト(93,000円)・高校英語弁論大会(94,000円)の運営費に充てました。

3. 高教研英語部会理事会

令和6年5月21日(火)、足羽高等学校で行いました。令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の発表校ローテーション等を確認しました。

4. 高教研英語部会総会

令和6年6月12日(火)、ユーアイふくいにて行いました。令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の延期に伴う発表校ローテーション等を確認しました。

5. 福井県高等学校教育研究大会 英語部会

令和6年8月20日(火)、アオッサ県民ホールにて行いました。

大会主題 生徒一人ひとりの特性や関心に応じて、新しい時代に必要な資質・能力の育成を進めるためには、各教科・科目における指導と評価をどのようにすればよいか。

部会主題 外国語によるコミュニケーションを通じて主体的・対話的で深い学びを実現し、一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくりにつなげるためには、どのような指導を行うとよいか。

発表者： 永田卓裕先生・橋本洋平先生（武生高校教諭）
村古崇徳先生 牧野剛士先生（敦賀高校教諭）

令和6年度 福井県高等学校教育研究大会 記録資料

【発表1】武生高校 永田卓裕先生・橋本洋平先生

1. 武生高校の特色

(1) 武生高校について

今年度創立126周年 / 全日制普通科・探究進学科 / 生徒数904人 (8クラス×3学年)

(2) 身につけたい、育てたい資質・能力

・TKF (通称ぐるぐる)

：学校教育目標で定める内容を“Thinking”, “Knowledge”, “Future & Frontier”に分類し資質能力ごとの評価基準を定めたもの

・SSH研究課題 (第IV期2年目)

：「未来社会を共創するグローバル・シティズンシップに富んだ科学技術人材の育成」

(3) その他

・授業改善自主研修「PT」：公開授業、活動報告、PT通信、PT会議 (新採用から再任用まで参加) を実施

・教科横断型授業の推進：ほぼすべての教科が関わる

2. 課題設定

(1) コンテンツベースをさらに深めた資質・能力の育成を目指した教科横断型授業

(2) 重点課題とする資質能力とそれに準拠したパフォーマンス課題の設定

① Boku “TKF” Rubric (学校教育目標で定める資質・能力の習得増強について自己評価するための資料) を基に、英語科の各学年で重点項目を設定 → 重点項目をベースに授業・評価を設計 (例)

2年生1学期：T (Thinking) ①思考力・判断力 Level 3

「1つのことに対して、根拠を持って思考しながらも、自分とは異なる考えや意見も参考にして判断できる。」

1年生1学期：T (Thinking) ②表現力 Level 2

「自分の意見や考えを、集団の前で大きな声で、全体に見渡しながら話すことができる。」

②①に準拠したパフォーマンス課題の設定

・2年生総合英語II / 英語コミュニケーションII

BLUE MARBLE Lesson1 “Leadership in Modern Times”

AIM: To develop your own idea by getting others' opinion

MQ: What do we need in order to be a good leader in modern times? の提示

授業展開

Step 1 Your 1st Idea→Step 2 Pair TalkI→Step 3 Other Ideas→Step 4 Your 2nd Idea
→Step 5 Pair TalkII

※Step 3 では、Chat GPT の回答と 2 名の社長の意見を読み、比較する

③パフォーマンス課題の評価 ライティング

形式・内容面で、自分の考えをいかに深めたかを重視 → 自己の調整をしているとみなす
→ 「主体的に学習に取り組む態度」として評価

- ・ 考査の平均点等を参考に、目標に立ち戻って 2 学期の目標を設定・変更する (Level を上げる or 他の項目に変える)

(3) 生成 AI の活用とその課題

- ・ Input のための活用に限定表現活動での活用は可能？

(例)

(2)② Step 3 生成 AI の意見を生徒に先に提示してしまうことで、その後の不適切な使用を防止
(あくまで選択肢の 1 つとして)

- ・ 英作文での不適切な使用
- ・ 生徒が自分で学びを進めるための活用方法を検討

(例)

英作文の添削 “Grammarly” など

(4) 課題研究との教科等横断

- ・ 教科書を総探的発想で取り扱う

英語

推論や解釈を促す教科書内容の深い理解
身近かつ社会的な話題についての表現活動

探究

探究学習全体への見通しを把握
課題設定に関する演習

(例) 教科書内容に基づいた「課題設定」の演習

1 年生総合英語 I/ 英語コミュニケーション I

BLUE MARBLE Lesson4 “Changing Behavior in Unique Ways”

教科書内容は解決策に焦点が当たっている → もとになった課題って何？

Agenda→Solution→Hypothesis の流れで整理して、課題設定の演習を行う

→ 課題研究の思考・課題設定の視点の習得

→ 探究学習としての効果を感じている生徒が多い

3. 今後の課題

- ・生成 AI の活用
- ・資質・能力の重点課題設定の継続的な見直し（3年間を見通して）
- ・重点課題に準拠したパフォーマンス課題設定と各4技能習得のバランス
- ・教科会で授業の話をする（パフォーマンス課題、重点課題設定等）

【発表2】敦賀高校 村古崇徳先生 牧野剛士先生

「教育努力目標に基づく主体的な英語学習者の育成を目指した実践」

1. 敦賀高校の概要

- ・創立約 120 年
- ・4学科 7～8クラス（理数・人文進学科（2）、普通科（3～4）、商業科（1）、情報経理科（1））

2. 教育努力目標

- （1）指導要領の趣旨に即し、英語の4技能5領域を有機的に統合させながら指導する。特に Speaking 力向上に焦点をあて、生徒の発話の質と量の向上を目指した言語活動を展開する。
- （2）ICT（Classi 等）の活用を通して、生徒の習熟度に応じた学習支援を実践し、コミュニケーションを支える確かな学力を養成する。
- （3）生徒の興味・関心を引き出し、コミュニケーション能力の育成につなげるため、ALT（2名）とのチームティーチングを効果的に行う。

3. 実践内容

- （1）「意見・考え」をやり取りできる仕掛け
 - ・コミュニケーション英語の授業において「意見・考え」をやりとりする活動を必ず reading の前後に取り入れる（テキストの写真、追加提示資料、イントロダクション）
 - 英語でのコミュニケーションの機会が増える
 - 生徒が主体の授業が展開できる（動機づけになる）
 - 教師自身が英語の授業を楽しめる
- （2）「4技能」を可能な限り取り入れる
 - ・コミュニケーション英語の授業で不足しがちなライティングにおいて
 - ① Lesson、Chapter ごとに初見テーマに関する英作文を書く（総合テストでも出題）
 - ② 「think & write ノート」（ハーフノート）を使う

(3) パフォーマンステスト

- ・年間4～5回のパフォーマンステストを行い評価
 - ①ディベート（1年次：生徒 vs 教員、2年次：生徒 vs 生徒）→「話すこと（やりとり）」
 - ②テーマに基づくプレゼン（非言語表現も評価の対象とする）→「話すこと（発表）」

(4) 課題

- ・音読課題を Google Classroom で提出させる

(5) 国際交流活動（ドイツ交流など）

- ・SDGs の目標について意見交換

4. 考察

(1) 成果

- ・生徒の処理能力が高まる → 資格試験（英検等）合格者の増加、ディベート大会での活躍
- ・生徒の英語授業への動機が高まる（コミュニケーション主体の授業の成果）

(2) 課題

- ・授業における Speaking 強化に向けての言語活動の確保（ディベートは時間がかかる）
- ・国際交流と英語学習のモチベーション向上の関係を検証 → 自律した英語学習者の育成
- ・ICT の個別最適な使用による、生徒の学力向上への方策をさらに検討

【質疑応答】

<武生高校への質問>

Q. (藤島)

- ・授業改善自主研修「PT」について、内容はもちろんのこと、どのようにして資質・能力を伸ばしていこうと考えているか。

A.

- ・PT 会議で、総合型選抜入試問題等（国家と信仰の関係について述べなさい。9つの資料を読み、様々な観点から考えさせる。）を検討した際、資料を複数読み取らせることや他教科の知識が必要になることが分かったので、それを実践していきたい。
- ・他教科の授業を参観する際、生徒の様子をどのように見取るのかを意識していきたい。

Q. (高志)

- ・生成 AI の使用方法について、授業中に活用したことはあるか？

A.

- ・生徒たちは、Canva を使ってパワーポイントを作ることで時間短縮になっている。

Q. (敦賀)

- ・ルーブリックは、英語科教員が全員で話し合って作成したものか。どのように作成したのか。

A.

- ・SSH 研究推進部がたたき台を作り、学校全体で使い、英語科としても使用している。英語科なりに少し改善が必要かもしれないと考えている。

Q. (足羽)

- ・全英連でエッセイコンテストをなくそうとしている（生成 AI で作成しているのではないかとの疑念がある）。生徒が生成 AI を使用している実態はあるか。

A.

- ・英語科ではあまり見られないが、探究で活用しているのを見かけたことがあるので、英語の授業で使われることが出てくるかもしれない。

<敦賀高校への質問>

Q. (福井南特別支援)

- ・ドイツとの交流が英語学習へのモチベーションにどのようにつながっているか。

A.

- ・言いたいことがうまく伝わらないことがきっかけで、それを解決するために英語をもっと学びたいということにつながっている。

Q. (高志)

- ・意見・考えに焦点をおいた指導を発展させて、モチベーション向上につながるような手立ては何かあるか。

A.

- ・用意した発問に答えられない場合は、具体的な発問に変えて、励ましを入れながら対応している。それをきっかけに教科書に興味をもち、英語を話すきっかけになるとよい。話すときはタブレットを使って調べず、自分もっているものを表現するようにさせている。

【ご高評】

<教育総合研究所課長 岸川研司先生>

(武生高校について)

- ・教科横断型授業からの発展
- ・学校教育目標に沿って特色ある英語教育を展開
- ・育てたい資質・能力を受けて英語科ではルーブリックを作成・活用
→ 年間の授業を構成、タスクの検討・実施、成果を教科会で共有
→ 指導と評価の一体化の進化
- ・育てたい資質能力を明確化することで生徒に学びの有用性・必要性を生徒に実感させ、主体的な学習につながっている
- ・教師が教える授業から生徒が学ぶ授業へ
- ・習得、活用、探究の学びの過程で知識を相互に関連付ける
- ・普段の授業からコミュニケーションの目的・場面・状況を設定
- ・思考・判断・表現を育成している深い学びへ

- ・英語の見方・考え方をより豊かにしている

(敦賀高校について)

- ・主体的な英語学習者の育成を目指した実践。
- ・4技能5領域を統合し、特にスピーキング能力に焦点をあて、生徒の発話の質と量の向上を目指す。
- ・ALT とのチームティーチングを効果的に行う。
- ・リーディングの前後にやり取り（特に **Pre-reading** は動機付けとなっている）。
- ・ライティング活動も積極的に取り入れる。
- ・習熟度に応じた学習支援を行い、個別最適な学びを実現している。
- ・国際交流活動（ドイツ）において、異なる見方や考え方に触れることでコミュニケーションを深める。

<高校教育課主任 酒井良輔先生>

○全国指導主事連絡協議会の内容を踏まえて

- ・単元目標に基づいて、どのような言語活動、また、どのような領域を重点的かつ効果的に設定するかが重要。
- ・生徒発達の段階に応じて濃淡をつけて指導することで言語活動の時間を捻出。
- ・目的・場面・状況の設定の重要性（思考・判断が生まれる）。

○令和5年度英語教育実施状況調査

- ・福井県のパフォーマンステストの実施率は昨年より向上。
- ・評価は、児童生徒の学習改善、教師の指導改善の考え方に立ち、行うべき。
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料。
- ・高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料。

○生成 AI や翻訳ソフトについて

- ・活用方法について指導することが必要。
- ・生徒が自分で書いたものを改善するためについて使い、違いについて気づくことに学びがある。
- ・英語研究理事会において、敬愛大学向後先生によると、授業中に使用を制限する時間帯を作ることが大切なのではないか。
- ・文科省からガイドライン（令和5年7月）。
- ・Copilot の活用について（教育政策課より）（令和6年2月）。

○協働的な学びは英語の授業でしかできない。



企 画 部

部 長 内 田 冬 萌 (高志 高校)
副部長 吉 田 充 宏 (高志中学校)

●高等学校

<h3>第 6 3 回高校英作文コンテスト</h3> <p>期日：9月21日(土) 会場：各高校 参加：合計384名 共催：高文連 後援：県教委・福井新聞社</p>	<p>委員長： 葛 将愛 (武生高等学校)</p> <p>中井 慶子 (奥越明成高等学校) 養輪 和生 (武生東高等学校) 百田 貴哉 (若狭高等学校) 稲葉百合子 (仁愛女子高等学校) 田中 操 (敦賀気比高等学校)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト会場を各高校に設けていただきました。ご協力有り難うございました。 ・各校の参加者数を制限させて頂いておりますが、それより参加希望者が多い場合は校内選考をされている学校もあります。その際には採点をお願いしておりますが、ご協力に大変感謝しております。 	

<h3>第 6 4 回高校英語弁論大会</h3> <p>期日：10月5日(土) 会場：福井県国際交流会館 参加：1部22名・2部11名・3部2名 共催：高文連・ライオンズクラブ 後援：県教委・福井新聞社・福井テレビ</p>	<p>委員長：園井 圭介 (丸岡高等学校)</p> <p>青山 秀樹 (福井農林高等学校) 山口 隆子 (武生東高等学校) 西口 佳光 (武生高等学校) 森 三穂 (丹生高等学校) 内田 冬萌 (高志高等学校) 中内 浩貴 (美方高等学校) 吉田 充宏 (高志中学校)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・第1部の1位と第2部の1位が、第17回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会(石川大会)に出場しました。東海北陸ブロック大会では第1部に出場した谷口愛さん(藤島高校)が3位入賞を果たしました。 ・ライオンズクラブによる次年度の海外派遣生選考会も兼ねており、今回の海外派遣先はマレーシアとなりました。各部入賞者中の希望生徒に後日面接選考会を行いました。 	

●中学校

第67回中学校英語弁論大会	委員長：和田 祐樹（中央中学校）
期日：9月24日（火）	新谷 俊裕（丸岡中学校）
会場：国際交流会館	中島 佑介（光陽中学校）
参加：42名（35校）	黒川 晶平（陽明中学校）
後援：読売新聞社	片桐 正道（芦原中学校）
<hr/>	
<ul style="list-style-type: none">・第1部（午前）と第2部（午後）に分けて実施しました。・各部の最後に、生徒同士が小グループで感想を述べあう交流会を実施しました。・上位3名が高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場しました。・今年も多数参加いただきました。熱心なご指導を有り難うございました。	

中学校英語セミナー

各ブロックが主催する中学校英語セミナーに対し、企画部から活動の補助を行っています。各地域の特性を生かしたセミナーを実施しています。

主催：福井県中学校教育研究会英語部会

共催：関係市町教育委員会、関係市町中学校教育研究会英語部会、福井県英語研究会

後援：福井県教育委員会

◆高校英作文コンテスト委員会

第63回福井県高等学校英作文コンテスト

委員長 蔦 将 愛 (武生高校)

今の時代こそ読み書きが大切なのではないかと、思います。先日、人口知能翻訳サービス会社の DeepL が、音声翻訳サービスを開始したというニュースを見ました。早速導入してみたところ、その有用さと問題点がわかり、語学学習は新たなフェーズに入ったことがはっきり実感できました。今後は簡単な会話レベルの英語なら DeepL 翻訳で、または既存の AI 翻訳を用いてレストランのメニューや空港の掲示などの簡単な文書は賄うことが十分可能だと思います。日本人の中には、アルファベットの連なりを「言葉」として認識するのが難しいレベルの人がまだかなりいる状況において、そういった人達の行動範囲を広げてくれるのが AI 翻訳であることは間違いないと思われま。こうした状況が意味するところは、これまでではやされてきた英会話などはほとんどその価値を持たなくなるだろう、ということです。しかし、複雑な概念を正確に提示する、あるいは理解するための語学力は大いに必要になるのではないかと考えられます。つまり今後求められるようになる英語力とは、AI に任せられないような正確な理解が求められる分野で、しかもそれはそのやり取りをしている本人が持たなければならない能力になるということです。機械翻訳が主流になるにつれ、人間が持たなければならない能力が明確になっていき、英語力の指標はよりシビアなものになっていく、と思われま。簡単な日常会話程度のやりとりを求めるのであれば、前述の機械翻訳を頼る、あるいは世に数多ある英会話教室に足を運ぶほうが遥かに効率的であると思われま。限られた時間で生徒に必要な学びを保証する必要がある公教育において、英語教育では何を最優先にするべきなのでしょう。私は、英文法に基づき内容のある英語を読み、そして書くということ、これに尽きると考えま。読解力の低下が叫ばれている今こそ、読み書きなのではないでしょうか。

さて、今年度も英作文コンテストにおきましては、様々な点でご協力をいただきました。おかげさまで何とか今年度もコンテストを実施することができました。各学校の先生方をはじめ、関係者の皆様方にまずは心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

今年も語彙力の差によらない生徒一人一人の個性、創造性、独創性で訴えられる作文を書いてもらえるような出題内容に努めま。高校生らしいユニークな切り口の作品や、物事を真剣に考えて意見をしっかりと展開している優れた作品が数多く集まりま。

出題形式別に振り返ってみますと、A 部門では、地元福井に関する紹介や外国に定住するメリットを述べたりと、実生活に沿ったテーマに対して、率直に考えや意見を表明している様子が見られました。また一方で、「What kind of job do you want to do in the future?」というテーマには、地元の福井に U ターンし、両親の家業を継ぎたいといった意見や、新たに起業に挑戦したいといった、福井に根差したテーマもあり、四苦八苦しながらも結論に辿り着こうとしている努力が垣間見えました。

B 部門は、今年も読んでいて楽しく、奇抜な発想と豊かな創造力が発揮された優れた作品が数多く寄せられました。特に人間の顔が加護になっており、そこから鳥が飛び立っている様子の絵に関しては、課題への挑戦や人間的な成長に関するストーリーが多く見られました。いずれの絵の作品も、ストーリーがおもしろく、感情移入のしやすい、引き込まれる作品でした。毎年のことながら、B 部門に参加する生徒の発想の豊かさや創造力には感服させられます。

C 部門においては、今日の社会問題について問われた3つの課題について、賛成・反対それぞ

れの立場から様々な意見が述べられていました。中でも「オリンピックが開催されることは開催国にとって良いことである。これについて賛成・反対いずれかの立場で意見を述べなさい。」という課題に対しては、最近新聞やテレビで取り上げられることが多い話題のためか、そのメリットデメリットについてよく理解した上で意見を述べていることが感じられました。また、「性的マイノリティが過ごしやすい環境を整えるためには何ができるか。」という課題に関しては、様々な立場から物事を捉えた客観的な意見が多く見受けられました。学校においては、日頃から主体的に深く考えたり、情報を整理して分かりやすく相手に伝えたりするような活動が取り入れられてきているためか、よく練られた具体的な意見の述べられた作品が年々増えているように感じられます。

コンテストの開催におきましては、各校の英語科の先生方には準備の段階から実施、発送にいたるまで多大なるご協力をいただいております。開催の過程で些細なことでもお気づきのことがございましたら、事務局までご連絡ください。今後ともコンテストの発展のためにより一層のご指導をお願いして、今年度の報告にかえさせていただきます。

<実施要項>

主 催	福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
後 援	福井県教育委員会 福井新聞社 NHK福井放送局
協 賛 趣 旨	財)げんでんふれあい福井財団 本県高等学校生徒の英語力の向上を図り、その発表力を高めることを目的とする。
日 時	令和6年9月21日(土) 午後1時30分から3時まで
会 場	県内各高等学校

<実行委員>

【委員長】	薦 将愛(武生高)	
【実行委員】	中井 慶子(奥越明成高)	田中 操(敦賀気比高)
	稲葉百合子(仁愛女子高)	蓑輪 和生(武生東高)
	百田 貴哉(若狭高)	Simon Woodgett(福井県庁)
	Ryan Thornton(羽水高校)	Callum Perry(森田中学校)
	Bergen Franklin(中央中学校)	Jodi Harry(成和中学校)
	Anthony Bradley(武生第三中学校)	Chriserria Seymour(清水中学校)
	Ethan Lowe(鯖江高校)	Jeremy Bernat(武生第二中学校)

[入賞者一覧]

		最優秀受賞者	優秀受賞者
A 部門	1年	該当者なし	該当者なし
	2年	木下 遼一 (坂井)	廣田 樹 (坂井)
	3年	漆崎 未来 (武生商工)	飯田 愛琉 (科学技術)
B 部門	1年	藤田 将旗 (福井商業)	松尾 カタリン (足羽)
	2年	藤沢 至宝 (足羽)	田中 俊丞 (武生東)
	3年	大久保 玲 (仁愛)	内田 伊咲 (仁愛)
C 部門	1年	小松 颯心 (武生)	大西 花 (仁愛)
	2年	熊谷 咲希 (丹生)	久保寺 椎奈 (武生)
	3年	大道 凌凱 (武生東)	木村 千佳子 (仁愛)

[参加者数一覧]

会場	1A	2A	3A	1B	2B	3B	1C	2C	3C	合計	校内選考会 を含む数
大野				1			5			6	
藤島				3	3		1	2		9	
羽水						1		2	13	16	
福商				9	7		6	8		30	74
仁愛				3		4	1	4	3	15	
三国					3			2		5	
坂井		20	6							26	
金津				1	2		1	9		13	
科学技術	1	3	10							14	
足羽				4	11	1	9	9	5	39	
鯖江						6		4	4	14	
武生				5	7		12	7		31	
武生東				6	8		14	2		30	83
敦賀					4			7		11	
美方				3	3		12	10		28	
敦賀気比				2	3		2	7	1	15	
武生商工			12							12	
丸岡					2			30		32	
丹生					6	6		10	9	31	72
合計	0	6	3	48	48	13	45	82	83	377	515

武生東、福商、羽水、丹生は校内選考会を実施している。校内選考会を含む数とは、校内選考会に参加した生徒全員の数を指す。

[各部門最優秀作品]
2年A部門最優秀作品

Do you want to live abroad or to stay in Japan?

Ryouichi Kinoshita
Sakai High School

If I had to decide whether to live abroad or stay in Japan, I decided that I would like to stay in Japan. First of all, the reason I want to stay in Japan is because I have familiar environment. I am familiar with the food culture and I have family that I have known up until now. I think it's reasonable to think that there are this clear differences in Japanese culture and surrounding environments, such as prices and rules, compared to other countries. When I thought about this, I realized that if I were to live overseas, it would be difficult to instill the values and ideas I had when I lived in Japan into my life. However, there are also advantages to living abroad. In addition to not paying taxes and having a higher salary. Living abroad can enrich your life by increasing opportunities for cross-cultural exchange with people overseas. However, when I considered the advantages of living abroad and the advantages of remaining in Japan, I felt that the advantages of living in Japan were better. So I decided to stay in Japan. Furthermore, regarding the cross-cultural exchange is one of the advantages of living abroad. You can also travel abroad for a short period of time. So there is no need to live there I felt that one way was to try to this. Based on this I decided that I would like to stay in Japan and at the same time I would like to experience other country through travel and the internet increasing my interest and enriching my life.

3年A部門 最優秀作品

A gift from my aunt

Miku Urushisaki
Takefu Commercial and Technical High School

My dream for the future is to become a hairdresser. This is because I admired my aunt, who was a hair dresser and was active in various activities across many prefectures and countries. Ever since I was little, she was often in charge of hair and makeup for movies and dramas. She has also done hair and makeup for the Paris Fashion Week twice. Seeing her brilliant work, I became interested in and started asking various questions about a hairdresser. Before I knew it, I started imagining myself to work as a hair dresser next to my aunt.

Another reason is that I like learning and acquiring new skills and knowledge because I feel happy when I get closer to my ideal with them. That's why I want to acquire the skills necessary to

become a hairdresser and work hard to obtain the national hairdresser qualification. I also like talking to people. No, I'm such a chatterbox but feel comfortable not talking. Maybe I'm a person who gains power by talking to people. That's why I want to utilize my natural communication skills to faithfully respond to customer requests and create comfortable spaces.

In this way, I decided to become a hairdresser not only because of my admiration for my aunt but also because the profession of a hairdresser and my personality were compatible. Dreaming of a future where I can work with my aunt, I want to study hard to get into my first choice of vocational school.

1年B部門最優秀作品

One of Life

Masaki Fujita
Fukui Commercial High School

"I am so tired." "I feel cold." "I don't want to do anything." One people that head is birdcage says them all the way. He lost girlfriends, family, jobs, money and so on. Also, his head is so feature, many people don't approach him. His heart has been cold.

One day, he is walking like zombie. One bird is coming near to him. He sees this bird. The bird looks common bird, so he is walking again. But, the bird don't leave him. He wonder that "why this bird don't leave me?" He stop walking and watch again. Looking carefully, the bird looks cute. He like it little. "Come on, small bird," he says. Then, it comes here, and ride on his shoulder. It's warm little. He becomes to like it more. He wants to touch it, but he feel little nervous. He thinking little, he try to touch it. When he touches it, it looks little surprised, but it used to touched. He feel so happy, and he love it.

He wants to get it, so he try to enter it to his head, but it doesn't enter his head. He become sad, but he wants to possibly enter it to his head. He aggressive to enter it to his head. He is happy, but it try to escape. He looking happy and go to his home.

Next morning, he noticed it doesn't here in my head. He try to find it all of day, but it doesn't find. He is alone again. He is crying this night, but he noticed his action. He is apologizing for it in his heart.

After that, he decide to restriction many things. Then, he get friends, jobs and a lot of money. Also, he makes good family. He thought that "I don't never do it again."

A few years ago, he visited there again with his son. Birds are flying in the sky. His son is jumping frolic. Then, one bird is coming near to his child. He enjoy playing with it. After that, he wants to get it because he has birdcage like his father, too.

When he try to get it, his father says, "Don't get it, son." His son says, "Why?" Then his father says, "Many things have a life, so we don't break it." His son looks little sad, but says, "OK." And they leave there.

Behind the bushes

Shihou Fujisawa
Asuwa High School

A normal day at the small village with just about 200 people. There existed an old rule that can never be broken, and that is never go too deep into the forest late at night. Something is there. Alex a child of a lumberjack always follows his father into the forest to help him with his work. “Alright dad, this is the last batch of wool we need to cut for today” “Thanks Alex, you’re always a great help” says the father wiping off a tear of sweat with a smile on his face. “I think we should start heading back to the village before its too late dad” says Alex reminding his father the village rule of not going inside the bushy forest late at night. “Okay we’re gonnna go back home now, here grab onto this.” Says the father tossing Alex with the wood he’s just freshly chopped. After packing up all the equipment they started walking their way back home with Alex holding on with the chopped up wood and his father holding the essential equipment, They start talking about today’s work effort and the improvement of Alex’s carrying speed. “Look how fast I can run with the weight he’s carrying, “you still have a long way to go Alex” says the father laughing. In that moment Alex challenged his father to a race to see who can come back to the village the fastest. His father willingly agreed. “Alright ready? Set, Go!” Alex dashing full speed despite the weight he’s carrying ran through the forest but little does he know he’s taking the wrong path...by the time Alex realized it was dark and he didn’t know where he was done to the bushes and the tall trees. Owls were hawling and crows were crying *kakaw*. Alex quietly tries to navigate where he’s at when he hears a weeping noise of an old man behind the bushes. He slowly takes a look. It was shocking to see. It’s not an animal nor a human. It had a disproportional build with its head resembling a dead skull of a deer and skinny boney body despite its site. Alex lost his words and began to run as fast as he can ditching the wood he was holding. He never dared to look back. It started running while running back to the village running into his house. Hugging his father tightly and told him all the horror he’s experienced. His father comforted him with love and care. *Knock Knock* The door suddenly gets knocked due to the time and light he didn’t know who it was. Checking the window he saw a head of a dead deer corpse and a disproportional figure in front of the window that thing spoke” “Found you.”

Buddy

Rei Okubo
Jin-ai Girls' High School

Once upon a time, there was a boy who had a different face from others. His face was a birdcage, so when people met him, they were scared. He didn't have any friends except a bird which was living in his birdcage. He had never felt lonely. He was satisfied with that.

One day, he was walking to the town to get some food as usual. On the way to the town, he saw a new house being built. He was wondering what kind of person was going to live in the house. He went shopping and went back home.

The next week, he went to the town again. He found that the new house had been completed and a girl was there. She saw him and said, "Hey! I've just moved here. Nice to meet you." He was surprised because no one had ever talked to him like that. He was a little bit nervous but said, "Hi. Nice to meet you, too. I am going to the town to do some shopping." She said, "Oh! Can I go with you?" He said, "O.K." All the people were staring at them. At night, he felt it was like a dream, remembering what happened that day.

The next day, he went to the town to see her. However, she was surrounded by many boys, so he gave up meeting her. He thought, "I am stupid. She will never love me." Suddenly, the bird in his cage started to talk to him. "Why are you giving up? You can do it." He decided to approach her. Finally, she chose him and they started to live together. It was the first time that he didn't give up and his dream came true.

One morning, he was outside with the bird. The bird was ready to go somewhere. He said, "Where are you going?" The bird answered, "You can do whatever by yourself. You've overcome your problem. Now, it's time for me to leave." He was crying. He had learned a lot of things from the bird and himself.

Benefits from hosting the Olympic Games

Soshin Komatsu
Takefu High School

I think it is good for countries to host the Olympic Games. Holding the Olympic Games can activate the economy of a host country and be a great chance for a host country to be known as a good country.

First, a host country can make a lot of money by holding the Olympics. The Olympic Games are so famous that many people in the world are interested in them. Therefore, many foreign

tourists visit the host country to watch the Olympic Games. Tourists will stay in a hotel, eat at a restaurant and buy some gifts. It means that when foreign tourists go to the host country, a lot of money goes together. It is beneficial to the host country.

Second, it is a good opportunity for a host country to be appreciated by foreign countries. When the Olympic Games are being held, we see many articles or TV programs about the Olympics. In other words, the information about the Olympics spread world-wide. People throughout the world get to know about a host country through those information. Therefore, if the mass media reports that the country is good, many people evaluate the country in the same way. Let's take a look at Tokyo Olympics in 2020. Japan managed to operate the Olympics without serious problems and crimes, and people regarded Japan as a safe country to visit.

Certainly, there are some negative points, too. A host country needs to build new stadiums, railways, hotels and so on. However, the two points that we have seen outweigh negative points.

In conclusion, in terms of economic benefits and the evaluation of a host country, I strongly believe that hosting the Olympic Games helps a host country in many ways.

2年C部門最優秀作品

The Olympic Has an Important Role

Saki Kumagai
Nyu High School

I agree to it. It's because there are many advantages. For example, by holding it in your own country, athletes can participate in the competition in a familiar environment. And, they can play with the support of the overwhelming majority of supporters. With that happening, increased amount of medals earned. Also, by watching outstanding athletes from other countries, children will become interested in sports, the number of athletes who will be responsible for the future, and making it possible to develop a rich workforce. As another example, roads and railways will be built to transport the large number of spectators coming to the tournament, and transportation will become more convenient. Then, spectators visiting Olympic venues buy a lot of products from stores and hotels, leading to prosperity. In fact, the Tokyo Olympics had an impact of 3 trillion yen.

On the other hand, the spread of infectious diseases was seen due to the influx of people from overseas. And, a recession may occur when demand for infrastructure such as stadiums and increased consumer activity associated with the Games subsides after the Games have ended.

However, the Olympics are not just about winning or losing in sports; they also play a major role in international goodwill and world peace, such as by connecting people around the world through sports and by trying to end wars through the Olympic Truce. So, I am in favor of hosting the Olympics in my home country because I'm able to interact with and learn about many different countries through the Olympics, which allows me to come up with new ideas.

Olympic plays a wonderful role all the time

Ruka Daido
Takefu Higashi High School

I strongly believe that Olympic has a good influence on the host country. There are several reasons to support my opinion.

First, of all, Olympic can stimulate the economy in the host country. Japan is an appropriate example of this. In 2021, Tokyo Olympic was held in the capital of Japan, Tokyo after enduring the dark period of time Covid-19. Owing to this virus, the rate of economic growth dropped even to a minus. However, after Tokyo Olympic had achieved success, the economic growth rate a little recovered. I believe this is because Olympic itself surely helped this recovery, but also the proportion for the Olympic played a key role for this. For instance, the government and some committees involved in Olympics created the perfect environment for the Olympic games such as infrastructure, accommodations for athletes around the world. Consequently, these things brought a good impact to Japan's economy. This is my first reason.

Secondly, Olympic enables the host country to spread its attractions to the world. For example, Paris Olympic was held in the capital city of France. The TV stations were always broadcasting the game match. Some TV programs introduced French cuisine, good view and buildings like Eiffel Tower and even French culture. I enjoyed not only the result of Olympic games, but also the side contents like this. That's why I think Olympics has a good impact on the host country.

Moreover, maybe this is the biggest impact but a lot of people go to the country to watch the Olympic games with their eyes. More people come, more money is used in many ways, which makes the country rich. Even this visiting was for Olympic, but next time they might come again for sightseeing or food or shopping because they found out that here is a good place. Then, they come here again and again and use a lot of money, which enriches economy. This is how such a good cycle is created. For all of those reasons, we surely can enjoy Olympic games itself but at the same we can see big side effects, which are mainly good for the economy of the host country. That's why I believe the government has no choice but to take advantage of Olympic as a good opportunity to make their country better. We, citizens also have to know what to do during Olympic time. I personally are planning to go to the U.S. to watch the Olympic games with my eyes in 2028 to excite all over the world.

◆高校英語弁論委員会

第64回福井県高等学校英語弁論大会報告

委員長 園井圭介 (丸岡高校)

令和6年10月5日(土)に第64回福井県高等学校英語弁論大会が県国際交流会館にて開催されました。今年度は、昨年同様に引率者や保護者の観覧制限をなくしたことで、出場した生徒はより多くの聴衆に自分の思いを伝えることができ、達成感のある経験になったのではないかと思います。

ただし、完全に以前の大会に戻ったわけではありません。少しでも会場内の人数を抑えることを考慮し、午前午後の完全入れ替え制ではないものの、当日閉会式はせずに審査結果発表は後日という形をとりました。コロナ対策のために実施してきた方法を緩やかにしたものでしたが、審査に十分な時間をとることができるという利点もあり、大会運営方法の見直しを考えるきっかけになりました。これを機に今後検討していく予定です。

今年度の大会では、第1部に14校から22名、第2部に6校から11名、第3部に2校から2名の参加がありました。1部、2部、3部それぞれほぼ例年並みの参加者数でした。英語に少しでも興味を持っている生徒が、人前で話す楽しみを実感する機会となるこの大会に積極的に参加してくれることを期待します。

今年度のスピーチも、個性溢れるバラエティーに富んだ内容でした。自分自身や家族のこと、好きなことなど身近な話題を話す生徒もいれば、地元福井や日本、または世界で起きている様々な社会問題を取り上げた生徒も多く見られました。各学校での探究活動からスピーチの構想を得た生徒もいたかもしれません。高校生らしい考えや提案を生き生きと伝え、聴衆の心に響く説得力のあるスピーチを行う高校生の姿に、毎年感心させられます。

また、上位大会である東海北陸ブロック大会(石川県開催)には、第1部に谷口愛さん(藤島)、第2部に清水彩帆さん(藤島)が本県代表として出場しました。谷口さんは「未来は冷蔵庫に」と題して日本人の価値観について語り、見事3位に輝きました。昨年の第2部、サスロバ・ミレナさん(仁愛女子)に続く上位入賞です。後掲の優秀者原稿もご覧ください。

今年度もこの大会にご協力いただき大変ありがとうございました。素晴らしいスピーチを披露した生徒のみなさん、その指導にあられた先生方とALT、難しい審査をお引き受けいただき温かくアドバイスをしてくださる審査員の先生方、会場関係の方、そして大会を盛り上げるべく長年ご尽力いただいているライオンズクラブの皆様に対し、弁論大会スタッフ一同より心より感謝申し上げます。来年度の大会も多くの方に見守られながら、何よりも出場する生徒たちにとって充実した大会になりますことを願っています。



I. 大会要項 (抜粋)

第64回福井県高等学校英語弁論大会

- 主催 福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
ライオンズクラブ国際協会 334-D地区 5R
- 後援 福井県教育委員会 福井新聞社 福井テレビ
- 日時 令和6年10月5日(土) 午前9時30分より
- 会場 福井県国際交流会館 多目的ホール
- 委員・審査員
委員 ◎園井圭介(丸岡高) 青山秀樹(福農高) 西口佳光(武生高)
山口隆子(武生東) 森 三穂(丹生高) 吉田充宏(高志中)
中内浩貴(美方高)
審査員
第1部 村 香織(福井工業高等専門学校) Simon Woodgett(県庁)
伊達 正起(福井大学) Sherrice Lewis(明道中)
第2、3部 吉田三郎(敦賀市立看護大学) Aaron Pravacek(織田中)
渡邊 綾(福井県立大学) Meghan Morrison(明倫中)
- 本年度(令和5年度)参加者数

部 門	参加人数	参 加 校
第1部	22	金津、藤島、高志、足羽、大野、福井商業、仁愛女子 鯖江、武生、武生東、敦賀、美方、若狭 科学技術 14校
第2部	11	藤島、武生、足羽、福井商業、仁愛女子、武生東 6校
第3部	2	科学技術、武生商工 2校
合 計	35	22校

7. 実施概要

- (1) 第1部、第2部、第3部に分けてスピーチコンテストを実施し、成績優秀者を選出する。
- (2) 第2部において Questions & Answers (Interaction = 「やり取り」) を実施する。
- (3) 第1部、第2部で選ばれた各1名が、東海北陸ブロック大会に臨む。

8. 参加資格

福井県の高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在籍し、学校代表として選出された生徒(第1部・第2部はそれぞれ各学校から2名以内、第3部は各学校から3名以内)とする。

第1部: 次の(a)(b)(c)に該当しない生徒

第2部: 次の(a)(b)(c)に該当する生徒や1部の有資格者だが2部に出場したい生徒

- (a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、または公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。
 ※英語圏詳細については全英連ホームページ (<http://www.zen-ei-ren.com/>) を参照。
- (b) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (c) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

9. 制限時間 第1部、第2部は4分30秒～5分30秒。第2部のQ&Aは制限時間には含まない。（全国大会に準ずる） 第3部は4分以内。
10. 審査基準 全国大会に準じて審査する。
 第1部、第3部 内容 Content 50点、英語 English 30点、話し方 Delivery 20点
 合計 100 点
 第2部 内容 Content 50点、英語 English 30点、話し方 Delivery 20点、
 Questions & Answers (Interaction) 20点 合計 120 点
11. 表彰 各部門の1位、2位、3位、および優良賞（参加人数に応じて若干名）
12. ライオンズクラブ語学研修派遣
 入賞者の中から若干名、ライオンズクラブによる選考会（令和6年11月）を経て、マレーシア海外語学研修（令和7年予定）への派遣生徒を選出する。

II 入賞者

部 門	賞	氏 名	学 校	学 年	演 題
第1部	1 位	谷 口 愛	藤 島	2	Your Future Is in Your Fridge
	2 位	中 村 朱 里	敦 賀	2	Gift — A Lesson from My Freund
	3 位	下 迫 裕 仁	金 津	2	Our Independence Day
	優良賞	野 口 夢 来	美 方	2	Can You See the Music?
	優良賞	稲 木 幸 恵	藤 島	1	Let's Chase Many Rabbits!
	優良賞	中 野 美由起	福 井 商	2	Unseen Value
	優良賞	坂 東 美 桜	武 生 東	2	Do You Know "Ageism"?
	優良賞	大 西 花	仁愛女子	1	My Selfish Life
第2部	1 位	清 水 彩 帆	藤 島	1	Whose Dream Is Your Dream?
	2 位	長 尾 瑠 夏	仁愛女子	3	A Path to a New Harmony
	3 位	坂 口 七 菜	武 生	2	Mom
	優良賞	戸 嶋 紗 栄	福 井 商	2	The Only Path to Growth
	優良賞	梶 美 風	足 羽	2	No More Bullying
第3部	1 位	箕 輪 結 衣	武生商工	1	Learning to Believe in My Dream
	2 位	黒 鳥 勇 樹	科学技術	1	The World Is Connected

（優良賞は出場順にて掲載）

Ⅲ. 各部門優勝者原稿

【第1部 第1位】

Your Future Is in Your Fridge

TANIGUCHI Ai

Fujishima Senior High School

Have you checked the contents of your fridge lately? How much food are you about to throw away? It could be a carton of milk that's about to expire, an unopened jar of mayonnaise way past its best-before date, or a slice of watermelon that's been in there for a week. Better yet, have you ever thought about how much food you waste daily?

I used to take it for granted. Whether it's leaving a bit of food on your plate, throwing away clothes you've grown tired of, or discarding unused items, these actions might seem normal. Japanese people call this "mottainai."

We waste a lot of things. We leave food on our plates, throw away clothes quickly, and overuse electricity and water. Compared to the lives of people in developing countries, our lives are perhaps too extravagant. I wonder if Japan's mass production, consumption, and disposal are really sustainable.

In my family, my father always makes sure to finish every grain of rice in his bowl. He often tells me, "We shouldn't waste food. Don't you know that children in Africa have nothing to eat?" When I was a kid, I didn't fully understand it. How exactly does consuming everything on my plate help the starving children in Africa?" He told me that he learned this from his grandfather. At the time, I just thought he was just a big eater and that he was just making an excuse for his gluttony. Looking back, I realize I learned the importance of cherishing food from my father. Wasting food is like betraying the hard work of farmers and manufacturers. It's also a betrayal of nature that gave us these blessings.

Actually, the concept of "mottainai" goes even deeper. It encourages us to deeply reflect on life itself. It's not just about wasting material things but also intangible ones; for instance, time. We all have 24 hours in a day. But how we use that time is up to us. Wasting time by putting off things we ought to do is like wasting a precious resource. Maybe you want to travel, learn something new, or try a new hobby. But are you taking this precious time for granted? Are you playing games instead of finishing your homework? Are you always scrolling senselessly on TikTok, just drifting through life without thinking about the future? If we continue living like this, we might regret it someday. Oh, I see many guilty faces in the crowd. Don't worry. The good news is, it's not too late to embody "mottainai"!

This also applies to opportunities. Are you second-guessing yourself? Mottainai! Trust in your skills and apply for that job position you want! The window of opportunity, just like food, is finite. If we don't grab it now, it might never come again. Some people think they are miserable because they are unlucky. But luck happens when opportunity meets preparation. If you waste an

opportunity because you are being lazy or simply too timid, you are betraying and wasting yourself, just like how you are wasting that milk in your fridge that is about to expire.

You see, the concept of “mottainai” can help us realize that we need to change our daily actions to create a better world. To do this, we must start with ourselves and apply “mottainai” in our lifestyle.

I hope we all realize that “mottainai” is like a compass that guides us in the right direction. With it, each of us can improve ourselves and contribute to building a better society. And this starts with simply opening our fridge, checking its contents, and reflecting on what things, physical and abstract, we are wasting away.

【第2部 第1位】

Whose Dream Is Your Dream?

SHIMIZU Saho
Fujishima Senior High School

I have lost my dream.

When I was in the 4th grade of elementary school, I found some cute birds in my grandpa’s backyard and instantly fell in love with wild birds. I enjoyed gaining knowledge from books, as well as doing activities like bird-watching, collecting feathers, and setting up bird feeders. I even made an original T-shirt saying, “My life is dedicated to birds!” Anyway, without any doubt, my dream was to become a bird researcher, just like I wrote on my T-shirt.

It was natural that I decided to do research on birds for my first summer science project that year. During that summer break I spent several hours at a nearby park almost every day to keep a record of birds there. I was thrilled to have found 16 species of wild birds, including ones I had never seen before. I submitted a paper for the Fukui Science Academy Award and, to my biggest surprise, won the Excellence Award! I simply felt proud of myself. However, at that point, I couldn’t imagine that winning this prize would cause me serious problems later on.

Because I won the prize, people often came to me saying, “What’s your next research theme?” “You might be interested in this bird event,” “How admirable that you pursue your dream at this young age,” blah, blah, blah. Although I gave positive responses to all those comments, I gradually felt stressed to hear such things because I felt how heavy people’s expectations around me were despite the fact that learning about birds was just my hobby!

But, still, I wanted to win that prize again the following year. I must have got addicted to the taste of earning attention and respect from others. I tried my best anyway to complete the project,

but not only did I get a disappointing result, I somehow realized that my passion for birds was not as intense as it was before.

Despite my confused feelings for birds, I ended up continuing to do research on them for three more years and focused on crows. More precisely, I tried to find out how close I could approach to them. For those 3 years, I chased crows over 1,000 times in total to collect data. The expectations from others must have urged me to collect such a massive amount of data. Luckily, when it came to winning a prize, I broke my personal record every year. However, the greater the people's expectations were, the less my passion for birds became. So, by the time I started my final research, the first thing I thought was "I want to finish it as quickly as possible!"

When I realized that my passion faded away, I got so depressed. However, what I did next was to hide the truth from others. After all, what I wanted to hold on to must have been the praise I got from others. I was probably in love with my self-image that looked bigger than who I really was.

It's been a few years since I lost my passion for birds. I am already in my first year of high school and haven't found anything new to feel passionate about. I know that I have no time to waste, but don't know what to do.

This summer, in the midst of my troubled days, I came across a book written by the famous astronaut Soichi Noguchi. I learned that he was suffering from "burnout syndrome" after he came back from his last space mission. In his 10-year recovery process, he realized that he had sacrificed himself to play the role of an ideal astronaut. While he had suppressed his honest feelings and desires for a long time, he lost his future vision in the end. I truly understand what he'd gone through. I was not the only one who had been affected by others' expectations and lost sight of what I wanted to do.

Mr. Noguchi says that the most important thing is to focus on yourself, not to pay too much attention to the criticism from and expectations of others, and not to fake your image to make yourself look bigger. The message hit me!

Now I'm in pursuit of what I really like by taking on different challenges. I hope one day that my own pure mind would guide me to a genuine goal and not seek validation from others.

What about you? What is your dream? Is it really your own? I hope it is not a dream to make someone else feel satisfied, nor is it a dream to make yourself look bigger in the eyes of others!

Learning to Believe in My Dream

MINOWA Yui

Takefu Technical and Commercial High School

I think everyone should have big dreams. Dreams give us a reason to look forward. They give purpose to our lives every day. And there is meaning in continuing to look forward even if your dream is rejected by people close to you. But only having a dream is not enough. It is also necessary to learn to believe in yourself and in your dream. I believe that you can learn a lot by working hard to make your dreams come true.

My dream is to become an actor and model. I have wanted to do this since I was a child. I want to give people more joy in their everyday lives. In elementary school, this was a great dream to have. But as I got older, things changed. In junior high school, my mother told me, “There’s no way I could do it,” and, “To look at reality.” She was worried that if I chased this dream, my income would not be stable. I had really wanted to make this dream come true, but it was rejected by someone close to me.

I felt sad and confused. So I tried to think of new dreams; however, no matter what I did, my original dream was always lingering in my mind. I still wanted to achieve it. I couldn’t give up yet.

But when I entered high school, I began to worry more and more that I might have to let go of my dream. However, at that time, two entertainers called Rabittora came to our school and gave an inspiring speech. They told us, “You should dream of what you absolutely love and what you want to be.” After hearing their story, I decided that it’s okay to have these dreams, and that it’s okay to chase after them.

As an adult, I will be able to audition without my parents’ permission. So I will try my best after I graduate from high school. I will also put effort into learning English, so that when I succeed, I will be able to communicate with supporters from around the world.

Even if no one believes in me, I will believe in myself and in my dream. Because if I give up on my dream, then I am giving up on myself. And I already decided that, no matter what, I will make my dreams come true.

◆中学校英語弁論委員会

第67回福井県中学校英語弁論大会報告

委員長 和田 祐 樹 (中央中学校)

令和6年9月24日、県内より42名が参加し、第67回福井県中学校英語弁論大会を実施しました。参加各校においては、学校祭や秋季新人大会など、行事が重なる忙しい中での校内選考や発表準備でしたが、ご担当の先生方をはじめ、関係者の皆様のご尽力により、盛大に大会を開催することができました。ありがとうございました。

また、多くの保護者や引率者の方々に温かく見守られながら大会を開催できたことを大変嬉しく思います。当日、生徒たちは練習の成果を十分に発揮し、プレッシャーの中でも立派に思いを語っていました。

優勝を勝ち取った高志中学校の林依知花さんは、“Unlearning”という題で、様々な概念や情報が行き交う現代社会の中で、どう考え生活していくかを語りました。「無意識の偏見」を誰もが持っており、それが人を無意識に傷つけたり、逆に傷つけられたりしていないかということを自らの経験を交えながら分かりやすく伝えていました。終末には、「無意識の偏見」を取り払うための提言を上手にまとめていました。抑揚のある非常に力強いスピーチで、心に残った人がとても多いのではないのでしょうか。

2位になった至民中学校の牧涼生さんは、“Fukui’s Delicious Water”のタイトルで、一度自然界に出ると分解されにくい化学物質「Forever Chemical」の存在について語りました。大好きな福井のお米の話から、地元越前市の名水が汚染されている現状を語り、自らの調べたことや経験から、「Forever Chemical」が至る所で大きな問題となっていることを分かりやすくまとめていました。様々な人にまず「Forever Chemical」を知ってほしいと強く訴えていました。一人ひとりが毎日ちよっとした行動に気をつけることで、我々福井のおいしいお米、水を守ることができるのではないかとスピーチを締めくくっていました。

同じく2位となった鯖江中学校の川畑晴人さんは“Unsung Heroes”のタイトルで、「No.2の役割の重要性」について話しました。何事もNo.1を目指し、No.1しか物事を変える力を持っていないと感じていた自分が、TEDTALKのプレゼンからNo.2の役割について大きな学びがあったことをまとめていました。クラス、生徒会、部活動の経験を交えながら自分の経験を振り返り、トップリーダーしか物事を変えられないのではなく、リーダーを支える影のNo.2の役割があつてこそ組織は成功に近づくのだと話していました。

昨年に引き続き、第1部と第2部の終了後それぞれに、小グループになって生徒同士が交流をする時間を設けました。この弁論大会が単なる「スピーチ発表の場」ではなく、「お互いの思いを伝え合う場」にもなつてほしいと考えたからです。実際に、会場にいたALTや引率教員も参加し、「弁論大会に向けて頑張ってきたこと」などを伝え合う様子が見られました。多くの生徒が、緊張から解放された安堵感の中、笑顔で互いの努力を認め合うことができました。

さて、委員長の大役を拝命し、多くの方にご意見やご助言をいただきながら企画運営をし、こうして無事に大会を終えることができました。改めて大会の運営にご協力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げたいと思います。今後も、どうぞ中学校英語弁論大会の運営にご理解とご協力をお願いいたします。

【本大会進出者】	優勝	林 依知花 (高志中学校)	Unlearning
	第2位	牧 涼生 (武生第六中学校)	Fukui’s Delicious Water
	第2位	川畑 晴人 (鯖江中学校)	Unsung Heroes

入賞者原稿
【優勝】

Unlearning

HAYASHI Ichika
Koshi Junior High School

Maybe you didn't mean to, but have you ever hurt someone by your words? I think the answer is probably "yes" for many people here. It was definitely true for me.

When I was an elementary school student, I had a friend who was good at cooking and making handicrafts. I once tried to compliment her, "Joshiryoku takaine (You are very feminine)." She got angry and said, "Why do you say that?" I was confused. I had no idea why she was angry. It wasn't until later when I could fully understand her feelings.

In junior high school, I had a project to make a poster together with some classmates. However, some members got distracted, and started playing games. I had to bear a lot of the burden by myself. It was exhausting work. The teacher noticed, and said, "I feel sorry for you. Girls have it tough."

I was shocked to hear that. Why did the teacher not recognize my individual effort? Why did he assume that I did this because I'm a girl, that girls have it tough? I couldn't understand why the teacher said that.

But when I thought about it, the answer was very simple. The teacher just didn't know. He would never think to hurt me with their words. Rather, maybe he was trying to compliment me. I think there was a subconscious assumption that girls worked, and boys played.

I finally understood how my friend was upset by my words. Like how I was hurt by my teacher's words, my friend was hurt by my words. I felt shocked and upset to realize that I had been harboring a prejudice, that girls should be good with their hands and be able to cook.

It was at this time that I came across the concept of "unlearning". The world is full of diverse races, genders, and backgrounds. The key to respecting this diversity is this concept of "unlearning". Please hear me out, and let me introduce some steps:

First, we must recognize our subconscious prejudices. Second, question these ideas. Ask yourself questions like, "Where did this idea come from?" and "Is this idea based on fact, or a stereotype?" Third, we need to be open to and take in new information. Then, we just repeat these steps.

Let's consider these steps with "Joshiryoku". It refers to a woman's ability to be stereotypically feminine, who is mindful about fashion and able to do chores. My elementary school friend got angry after I used this expression. So, we can assume that perhaps this expression was the cause. For step two, we can ask questions like: "Why is it that the ability to do housework and keep up appearances is limited to girls?" and "Is this something that separates girls and boys?" Then through step three, I decided to stop using the term "Joshiryoku" and look at the individual person.

In this way, the knowledge, habits, and beliefs that we have acquired up to now will be chipped away through new learning. People can change. We can change ourselves, even after acquiring some unfavorable prejudices. Through this process, we can reduce the amount of unintentional harm.

There are many who place people they meet or see into a mold, subconsciously making assumptions and prejudices. We must put aside our prejudices and continuously update our ideas. Let us open our minds and senses. We can create a better world, starting with the people closest to us!

入賞者原稿
【第2位】

Fukui's Delicious Water

MAKI Ryosei
Takehu Dairoku Junior High School

I have a special recipe I want to share with you all today. But only if you promise to tell everyone about it. I love eating white rice. Whenever I eat it, I feel happiness spread from my mouth through my body and out into the world. It's so special for me. I often eat organic rice grown by my friend's family. It's so delicious. But, it's even more delicious with a special ingredient.

That ingredient is Fukui's delicious, natural water. There is a famous natural water source in Echizen called 'Akadani.' Anyone can collect water there. My family uses it to cook white rice. I've been enjoying Akadani's fresh, delicious water since I was a baby. And many people have cherished its water for years before I was born. But now, Akadani's natural water is in danger.

Have you ever heard of 'forever chemicals'? These chemicals are found in many things we use every day. They are used in pots and pans, food wrappers, paint, clothing, and pesticides. They are called 'forever chemicals' because they take an incredibly long time to break down. In that time, these forever chemicals find their way into our water, our air, and into our bodies. We understand now that these chemicals hurt our health, leading to cancer or other serious illnesses.

Recently, my mother showed me a map of Japan. That map shows us the level of forever chemicals found in our rivers and underground water. My city, Echizen, was bright red. That means that our city is over the limit set by Japan's government. I was so shocked to see that. When we learned about this, my family began to feel worried about drinking Akadani's water.

We decided to keep drinking Akadani's water, but we started to think about how we can fix this problem. In Japan, we put over 400,000 tons of cooking oil down the sink every year. Just one liter of cooking oil can pollute over one million liters of water with dangerous chemicals like forever chemicals. People do this not because they don't care, but because they don't know about this fact.

After learning about forever chemicals, my brother decided to start studying about trash. We went to a beach in Tsuruga and in just ten minutes we picked up over one hundred pieces of trash from all over Japan and China. We took them home and learned there are many kinds of plastic trash with forever chemicals on our beaches. We threw that garbage away, but it will take many more people to make our beaches truly clean. Our mother also cleans our pots and pans with paper towel before washing them to stop oil from going down the sink. If we all work together in small ways like this, we can make a big difference.

Forever chemicals are a big problem, but it's an even bigger problem that people don't know about them. When I asked my classmates if they knew about forever chemicals, only one said that they knew about them. That student was my friend, who learned about forever chemicals from me. If even one person in this room changes their behavior after hearing about forever chemicals, then we have made a difference here. We can only fight forever chemicals when we know about them.

So everyone, do you remember our promise? Now you know about my special recipe and its two important ingredients. Fukui's white rice, and it's delicious, natural water. It's time to spread the message and protect this recipe so that we can enjoy it forever.

入賞者原稿
【第2位】

Unsung Heroes

KAWABATA Haruto
Sabae Junior High School

Here's a quiz. What is the highest mountain in Japan? Yes, it is Mt. Fuji. Now the second question. What is the second-highest mountain in Japan? The first place always attracts attention and becomes famous. But what about the second place? Not only does it not get much attention, but its name is often unknown. Is the second place that does not stand at the top a loser? Today, I would like to share what I've learned from my "setback" of not always being No. 1.

I always wish to have things around get better, and I've been trying to be the one who makes it better. So, I have willingly stood for leadership positions. I wanted to stand at the top to be the person who makes decisions and carry them out. I didn't think that I could have the power to change the group when I am in a lower position.

I have been the class leader every year since I entered junior high school, and in my first year, I ran for and won the election for vice president of the student council. In my second year, I ran for president. "The vice president is only No.2. I thought ambitious enough to challenge the election. However, it was fruitless. I also ran for captain of my tennis club, but it never came to pass. I was discouraged when I was unsuccessful in a series of leadership positions that I had longed for. I did not understand why I could not be No. 1.

Then in my English class, I watched a TED talks presentation which was by Derek Sivers, titled "How to Start a Movement". Its content is as follows: Many people were relaxing on the lawn. A man started dancing shirtless. The people around him just looked at him and laughed - "What is he doing? He looks crazy." After he had been dancing for a while, another man started dancing with him. And then, surprisingly, one by one, people started to dance after the second man. Eventually, everyone there joined the dancing group. The important thing here was that the second man who followed up, the one who triggered people to dance together; the second man was making the first man become the first.

Then I remembered a moment when I was the class leader. I was struggling to keep the class together because several students were not listening to my calls to action. Then the vice leader helped me to call them out. Furthermore, he told me about problems in the class that I was not aware of. I realized that the vice leader was acting as a "bridge" between me and the class as a whole. Without his help, I would not have been able to fulfill my role as class leader.

Kei Nishikori, a professional tennis player who has achieved many great feats and whom I respect, once said, "I don't care about surpassing or being surpassed by someone else; I'll just give the maximum effort that I can do." My tennis coach told me these words just before an important tennis match, and I was ashamed of myself for being so obsessed with being No. 1. The idea that No. 2 does not have the power to change the organization is wrong. Then I made up my mind that I would be the "bridge" that time around.

It is not enough for an organization or environment to change for the better simply by having an excellent leader. There are always unsung heroes for group change. Even if you are not strong enough to be No. 1, keep your passion burning and practice the best No. 2 work, so that No. 1 can be the center of attention and achieve success.

By the way, for the quiz at the beginning, the second highest mountain in Japan is Mt. Kitadake

放送テスト部

部長 栗田 由紀枝 (明道中学校)

日頃より英語放送テスト部の活動におきましては、ご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。おかげさまで今年度もほとんどの公立中学校（約 19,000 名）と、多くの高校（2,000 名余り）の生徒のためにご採用いただきました。

今年度、本部会では 5 名の新規部員を迎え、29 名のメンバーで活動しています。問題作成、録音、校正を部員で行っていますが、働き方改革が推進される中、問題作成に多大なる協力をいただくことで放送テストが発行されています。

生徒の日常会話で想定しうる状況や内容をより自然な場面設定の英文で再現されるよう問題を作成しています。

1. 令和 6 年度 各問題の出題範囲・発行回数・発送日

各問題の出題範囲 (A, B, C の出題範囲は東京書籍 2021 年版 *NEW HORIZON* に準拠)

種別	対象 (発送日)	第 1 回 (5 月中旬発送)	第 2 回 (11 月中旬発送)	第 3 回 (1 月初旬発送)
A	中学 1 年生	NEW HORIZON 1 P.4 Unit0 Welcome to Junior High School ~ NEW HORIZON 1 P.36 Grammar for Communication 2 名詞	P.37 Unit 4 Friends in New Zealand ~ P.76 Grammar for Communication 5 代名詞	P.77 Unit 8 A Surprise Party ~ P.121 Stage Activity 3 My Favorite Event This Year
B	中学 2 年生	NEW HORIZON 1 P.122 Learning LITERATURE in English ~ NEW HORIZON 2 P.34 Let's Listen 2 インタビュー	P.35 Unit3 My Future Job ~ P.82 Let's Listen 5 留守番電話	P.83 Unit6 Research Your Topic ~ P.121 Stage Activity3 My Favorite Place in Our Town
C	中学 3 年生 高校 1 年生	NEW HORIZON 2 P.122 Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet ~ NEW HORIZON 3 P.34 Let's Listen2 講演	P.35 Unit 3 Animals on the Red List ~ P.70 Let's Listen 5 世界で働く人へのインタビュー	P. 71 Unit 5 A Legacy for Peace ~ P. 114 これからの英語学習法
D	高校生	範囲や指定語句は設定していません。		

2. 令和 6 年度 会議実施

・問題形式や活動方針に関する全体会議	3 回 (6 月, 11 月, 2 月)
・問題作成会議	9 回 (夏季・冬季休業中) ※9 時~17 時
・録音および校正会議	6 回 (録音会議は 9 月, 10 月, 2 月の土曜日 / 校正会議は各録音会議の 3 週間後)

・結果検討会議	1回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会議	3回（必要に応じて随時）

3. 問題作成について

- ・問題作成の負担軽減のため、過去問を一部使用しており、今年度は平成30年度の問題を使用しました。
- ・問題作成の負担軽減のため、解答に記載していた難問の解説を廃止しました。

4. D問題について

H27年度から高校生用のD問題の発行を中止していましたが、D問題復活の要望があり、令和3年度から過去の問題より抜粋し、A～Cと同様のテスト形式にて作成しています。ALTの協力を得て、不自然な表現や場面を改良しながら作成しています。

5. 結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率やIDI（上位25%と下位25%の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。今年度も3月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率やIDIなどのデータをもとに検討会を行ないます。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

これまではマークシート方式で生徒回答の抽出を行っていましたが、作業の簡素化のため今年度からフォームでの回答抽出を試みています。

6. 令和6年度 部員（☆は新規部員）

No	名 前	学 校 名	No	名 前	学 校 名
1	嶋 田 晃 士	光陽中学校	16	佐々木 祥 子	中央中学校
2	中 島 佑 介	光陽中学校	17	柳 川 大 亮	中央中学校
3	河 合 啓 子	明道中学校	18	水 嶋 崇 太	中央中学校
4	☆坂 口 京 子	明道中学校	19	☆内 藤 元 彦	宮崎中学校
5	笠 松 政 世	進明中学校	20	☆加 藤 祐 衣	南越中学校
6	家 山 礼 佳	至民中学校	21	古 谷 有 香	武生第一中学校
7	ハート 真由美	藤島中学校	22	木 戸 美樹子	武生第二中学校
8	松 田 ひとみ	鷹巣中学校	23	小 川 陽 平	福井商業高校
9	竹 澤 沙 貴	森田中学校	24	田 嶋 由 美	坂井高校
10	中 村 真 士	清水中学校	25	大 村 昭 友	足羽高校
11	☆源 藤 里 佳	美山中学校	26	伊 藤 美智子	足羽高校
12	☆牧 田 祥 代	大安寺中学校	27	(部 長) 栗田由紀枝	明道中学校
13	河 合 創	義務教育学校	28	(副部長) 野崎 恵美	高志中学校
14	小 林 萌	松岡中学校	29	(副部長) 兼井 智加	大東中学校
16	吉 田 広 視	金津中学校			

【部員より一言】

- 第2回の発送が大幅に遅れ、多くの先生方にご迷惑をおかけしました。大変申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。今後、気を付けていきます。(栗田)
- 学校の教科会だけでは学ぶことができないことも沢山あります。自分の作った問題を沢山のの人に揉んでもらい、意見をいただけるということは本当に勉強になるし自分の財産になると思います。私も勉強を怠らず、良い問題を作っていきたいです。(小林)
- とても勉強になります。(水島)
- 毎年、毎回、いろいろな先生方との出逢いや再会の場になっているなあと感じます。教員としての師匠とも呼べるような先輩方はもちろん、顔見知りの先生方、久しぶりに会う元同僚、そして教え子まで…会議でいろいろな方とお会いでき、いっしょにお仕事させていただけてうれしいです。いつもありがとうございます。(佐々木)
- 今年も夏休みに問題作成に参加しましたが、他の学校の先生方の意見はすごく参考になりました。(柳川)
- 問題作成は時間もかかりますし大変ですが、部員のみなさんと悩みながら完成させた時はとてもうれしいですし、達成感があります。それを自分の生徒たちが聞いている、というのもうれしいものです。今年度も問題作成、頑張りたいと思います。(ハート)
- 放送テストの問題作成を通して、自校での授業やテスト問題作成などにも役立てることができ、とても有益な活動だと思えます。また、前向きで、熱く、いい仲間に出会えた場所です。ありがとうございます!!(伊藤)
- 作成会議・録音会議に参加させてもらう度に、新たな発見があり、いつも学ばせてもらっています。今後ともよろしく願います!(中村)
- 久しぶり?に問題を作成しました。楽ではありませんが、教科書をじっくり読み、教材と向き合う機会になりました。(嶋田)
- 自分の作成した問題に対して、いろんなご意見をいただけるのはやはり勉強になることだと改めて感じました。新しい先生方もベテランの先生方も、みんなが気軽に意見を言える雰囲気の中で、これからもいい問題ができていくといいなと思います。(野崎)
- 毎回勉強になります。「聞いて分かる」を念頭に作成するので、授業始めのインタラクションなどに生かすことができます。また、様々な情報交換もできます。参加ご検討の方はぜひ!!(松田)
- 初めて参加をさせていただきます。テスト作りに対する熱い情熱をひしひしと感じ、とても刺激になっています。これからも宜しくお願いします。(内藤)
- 問題作成は、正直大変です。でもそれ以上に得られる経験値は大きいです。福井の子どものため、福井の英語教育のために可能な限り今後も頑張ります。(中島)
- 放送テストを作る上で、大切なことを様々な先生から教えていただけるので勉強になります。(坂口)
- 自然に英語を使う状況設定や、生徒の感じ方など、全ての面において勉強になっています。(牧田)
- 問題の作成を通して、単語のニュアンスや用法で新たな発見があります。使用されている場面を確認するために何度も教科書を開きます。最後の部分だけ聞けば答えが分かってしまうような問題にしないために、英文の流れを考えます。これらのことが自分の英語力を上げることや、授業で生徒たちに伝える内容を肥やしてくれていると実感しています。

また、部会を通して、多くの先生方と出会えることは仕事をする上で楽しみでもあります。そして、その先生方のお力のおかげで問題を作成できていることには感謝が尽きません。それと同時にその先生方の知恵と時間をいただいて問題を作成しています。より多くの方に関わっていただき、一人一人の負担を少なくできたら、と感じています。少しでも興味をお持ちの先生方、ぜひ、周りの部員の先生方や事務局までご一報ください。(栗田)



広報部

部長 島田敏宏（金津高校）

今年度も広報部の部長を務めさせていただきましたが、まずもって、広報部の活動に御理解・御協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。会員の皆様に興味を持って読んで頂けるような会報を目指し、これからも部員一同誠心誠意取り組んでいく所存です。会報では、継続して「英語科紹介」コーナーで、各校の先生方を紹介させて頂いております。好評を頂いており、引き続き紹介をさせて頂きたいと考えておりますので、依頼があった際には、御協力の程よろしくお願ひします。

また、広報部では英語研究会のホームページを管理・運営しており、インターネット上でいつでも会報を見て頂けるように更新しております。こちらも気軽に御活用頂けると幸いです。

最後になりますが、各校英語科主任の先生におかれましては、年度当初のお忙しい折に、会員名簿の作成にご協力頂きまして誠にありがとうございました。次年度以降もお世話になりますどうかよろしくお願い致します。

1. 令和6年度事業報告

- 1) 福井県英語研究会会員名簿発行（8月、700部）
- 2) 『会報』第83号発行（2025年3月、600部）
- 3) 福井県英語研究会ホームページ管理・運営
ホームページアドレス：<https://fukuieiken.jp/>

2. 令和6年度広報部員

部長	島田敏宏（金津高校）
副部長	織田昌宏（高志高校）
部員	稲葉芳明（勝山高校）
	森谷町子（大野高校）
	川田裕貴（陽明中学校）

各委員会より

(1) リーディングテスト部会

活動内容：リーディングテストA、B、Cを4回分作成（会議は各回につき4回程度）

第1、2回を6月上旬、第3、4回を10月下旬にそれぞれ配付

本年度も教科書の内容、言語材料に関連したリーディング教材を作成した。更に『Let's Read A, B, C』も例年通り改訂を加えた。なお、令和7年度Cの第1、2回は嶺南リーディングが作成した。どの教材についても、生徒が無理なく読むことが出来るように既習の表現を用いて作成した。作成委員の先生方は常に社会情勢や流行にアンテナをはり、生徒に伝えたいことを英文に込めるよう努力されている。そのおかげで、中学生が興味を持って読み進めることができ、文章から十分な学びを得ることができる良問が作成できたと自負している。

本年度は新たに、長野県に派遣されている先生にもオンラインで参加していただいた。事前の電子メールによるやりとりを活発にさせていただいているおかげで、このような形での会議や問題作成も可能になっている。あわせて、当日の検討の時間を減らせるようになり、今では18:30頃には会議を終えられている。とはいえ、まだまだ作成委員の確保は本委員会の課題となっている。本年度も委員長、副委員長をはじめ、参加した先生方の努力のおかげで、生徒の興味関心を引きつけるようなテストが完成した。新たに参加してくださった先生方の問題作成の技量も回を重ねるごとに向上し、充実した活動になったと思われる。

令和7年度は教科書の改訂がありますので、出題範囲に変更がございます。

(2) リサーチ委員会

作成委員の確保が難しいことからここ数年活動を停止している。冊子版の『Let's Read for Message』については、注文数が少ないため発行に至っていない。次年度も活動はしない予定である。

(3) TEFL 委員会

今年度のTEFL委員会では、中学校と高校のギャップについてさまざまな角度から検討している。異校種の教員が、互いの実践や日頃感じる問題点などを共有することで校種間のスムーズな移行につなげることを目的としている。そのなかで注目したのが「やりとりの活動」である。令和5年度英語教育実施状況調査では、福井県の中学校においては「授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合」で84.5%と高い結果であった。TEFL委員が勤務する中学校、高等学校でも、年々言語活動のしやすさを感じている。その一方で、やりとりを行う際の文法面の正確性においては低下が感じられる。また、高等学校で、論理的思考を伴う活動をする際に、その素地を身に付けるのに時間がかかるという意見もあった。

これらの現状を踏まえ、授業でのやりとりに再度注目し、よりよいやりとりのために中高が連携できることは何かを考えたい。また、意見や考えをまとめ、より深いものにするための手立てとして、マッピングやマンダラートなどの思考ツールの活用についても検討したい。

今年度も Bridging を発刊する。新年度生の高校入学前や入学後に中学校で学んだ英語の復習に活用頂けるものである。是非、ご活用いただきたい。

(4) 英語ディベート委員会

本年度も研修会は全てオンラインで行ったが、全国大会が対面で行われることに準じ、県大会は対面で開催することとした。学期制の違いなど、スケジュール上の理由から研修に参加できない高校があるなど若干のトラブルはあったものの、例年よりスムーズに各研修会を実施することができた。また大会では県外のジャッジにはオンラインでジャッジをお願いする「ハイブリッド」開催を行うことで、全国大会審判長や決勝ジャッジを歴任した方々に県大会からジャッジいただくことができた。

5～7月	YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修
7月28日(日)	第1回オンライン研修会【パーラ】練習試合
8月5日(月)	第2回オンライン研修会【アカデ】練習試合
9月7日(土)	メイクフレンズカップ ジャッジミーティング
9月15日(日)	第6回メイクフレンズカップ in Fukui 運営
9月22日(日)	第2回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合
10月24日(木)	福井県高校生英語ディベート大会引率者・運営協力者会議
11月4日(祝)	第17回福井県高校生英語ディベート大会(準備型)
11月10日(日)	第8回福井県高校生即興型英語ディベート大会
12月21日(土)	第19回全国高校生英語ディベート大会 in 岡山(～22日) ⇒藤島高校が7位入賞
12月24日(火)	第10回 PDA 全国高校生即興英語ディベート大会(～25日)

(5) オフィス

英語研究会研究部は教員がさまざまな意見を交わし、情報を交換することで、自身の授業力や作問力など、英語科教員として必要な力を磨く貴重な場となっています。研究部が掲げるいちばんの目標は生徒の英語力向上である。そのためにも研究部では、各委員会において、委員長さんを中心に有効な活動や教材を模索し、研究することで、それぞれの成果に繋げていきたいと考えている。

(6) 令和6年度 研究部部員名簿

研究部 (オフィス)			
	職	名 前	学 校 名
1	部 長	村 昭信	三国高等学校
2	副部長	笹木 英俊	金津高等学校

リーディングテスト委員会 (嶺北)			
	職	名 前	学 校 名
3	委員長	進士 祐介	高志高等学校
4	副委員長	澤田 亜紀	成和中学校
5	委 員	坂下 元	大東中学校
6	委 員	稲田さとみ	(県外公立校)
7	委 員	和田 重	灯明寺中学校
8	委 員	伊藤江莉奈	福井大学附属義務教育学校
9	委 員	谷口 広憲	福井南高等学校
10	委 員	佐伯 那菜	明道中学校
11	委 員	宇原 弘晃	南越前中学校
12	委 員	米澤 瑛里	進明中学校
13	委 員	水谷 友梨	武生東高等学校
14	委 員	山口 直孝	福井東特別支援学校
15	委 員	水野 広隆	明倫中学校
16	委 員	東 純麗	芦原中学校
17	委 員	森永 里佳	藤島中学校
18	委 員	清水 慈昭	大野高等学校

リーディングテスト委員会 (嶺南)			
	職	名 前	学 校 名
19	委 員	池上 岳昭	栗野中学校
20	委 員	百田 貴哉	若狭高等学校
21	委 員	小竹 景士	敦賀工業高等学校
22	委 員	上戸 大雅	若狭高等学校

TEFL委員会			
	職	名 前	学 校 名
23	委員長	百田 忠嗣	三方中学校
24	委 員	三仙 真也	藤島高等学校
25	委 員	武田 由貴	敦賀高等学校
26	委 員	本田 涼哉	若狭高等学校
27	委 員	松居 貴昭	大野高等学校
28	委 員	橋詰 夏美	小浜中学校
29	委 員	宮内 望	松陵中学校
30	委 員	佐々木和桜	若狭高等学校

英語ディベート委員会			
	職	名 前	学 校 名
31	委員長	三仙 真也	藤島高等学校
32	副委員長	松居 貴昭	大野高等学校
33	委 員	西川 智康	高志高等学校
34	委 員	笹木 英俊	金津高等学校
35	委 員	木下 弥	鯖江高等学校
36	委 員	松山 公香	大野高等学校

◆リーディングテスト委員会

委員長 進 士 祐 介 (高志高校)

<委員の先生方の活躍>

今年度のリーディングテスト委員会は、問題作成者に新たな先生方を3名お迎えし、スタッフ4名、問題作成者17名(嶺北13名、嶺南4名)、計21名でリーディングテストの作成に取り組みました。昨年度から継続してご協力してくださった先生方はもちろん、新たに参加してくださった先生方、戻ってきてくださった先生方、非常に精力的に取り組んでくださり、感謝いたします。嶺北リーディングテスト委員会では、5月に初回の会議を行い、今年度の方針などを話し合いました。一昨年度より、第1期を5月～8月、第2期を10月～1月と年間2シーズンに変更し、1ヶ月に1回のペースで検討会議を行いました。嶺南リーディングテスト委員会では、9月から1月にかけて、嶺北同様、月1回程度のペースで検討会議を行いました。会議と会議の間には、メールでのやり取りを積極的に行っていただき、毎回の検討会議の話し合いをスムーズに行うことができました。

<リーディングテスト委員会の活動の様子>

リーディングテスト委員会の検討会議は、グループごと(A:中学1年生、B:中学2年生、C:中学3年生)に分かれ、チーフの先生を中心とし、終始和やかな雰囲気で行われています。どの先生も、書籍やウェブサイト、ご自身の経験などから、生徒が興味を持ちそうなトピックを取り上げ、よりメッセージ性の高い問題を作成していただいています。

検討会議の場は、校種、年代、経験年数の異なる様々な先生方と、問題作成に関わる話はもちろん、貴重な意見交換の場にもなっています。リーディングテスト作成の技術は、英語教員に欠かせませんので、若い先生はもちろん、ベテランの先生方にもどんどん参加していただき、お互いのアイデアや経験をこの場で生かしていただきたいと思います。リーディングテスト作成に興味のある方、校種・時期を問わず、いつでも大歓迎です。

<リーディングテストについて>

リーディングテストを作成するにあたり大切にしていることは、読み手である生徒に送るメッセージです。生徒に興味を持ってほしいこと、考えてほしいこと、気づいてほしいこと、学んでほしいこと、などを伝えられるような問題作成を心がけています。そして更に、これらのメッセージの読み取りを期待して、設問を作成しています。設問については下のような視点を大切にしています。

- ・本文に書かれた情報を整理するもの(語彙や新出の言語材料を理解しているか確認)
- ・ストーリーの流れを推測するもの(文字情報からその後の流れを推測できるか確認)
- ・述べられている状況を絵で選ぶもの(文字情報から場面をイメージできているか確認)
- ・メッセージを読み取るもの(筆者や登場人物が英文を通して伝えたいことをつかめたか確認)

テスト範囲のページ番号を各テストに記載し、授業の進度に合わせて利用しやすくなっています。また、昨年度より「語数」を表記することにより、WPM(Words Per Minute)にも活用しやすくなったのではないかと思います。

< Let's Read について >

リーディングテスト委員会では、過去のテストを冊子にした Let's Read (A～C) を作成しています。毎年改定を行っており、教科書改訂に伴う新出語句や文法事項の配列、トピックの精選にも気を配っています。旧教科書での作成範囲と新教科書の作成範囲が混在しておりますので、文法配列が新教科書に完全に対応できておりませんが、徐々に移行していきたいと思っております。その他、構成等に関わるご意見がありましたら、ぜひお寄せください。

<リーディングテスト委員から一言>

○リーディングテストに参加させてもらってからの数年間をふり返ると、ここでの活動が英語教師として大きなポイントになったと思っています。初任の頃はテストの作り方さえ分かりませんでした。今ではここで得たものが授業づくりにも活かしていると感じます。

(福井南高 谷口 広憲)

○1つの作品を作るために、様々な角度からじっくりと検討していただけるので、毎回非常に学びの多い会となっております。また、雑談の中で授業への様々なアイデアをいただける点もありがたいです。

(南越前中 宇原 弘晃)

○高校勤務です。中学生向けのリーディング問題を作成していて、高校でも役に立つことは、たくさんあります。

①中学校で学んでいる語彙や文法を知ることができるので、高校でも指導しやすい。

②中学校の教科書を手元に問題を作成するので、高校の授業で「これ実は中1ならってるんやよ～。be good at doing. Josh が Asami ちゃんに盆踊り誘うときに、Asami は I'm not good at dancing. って言って、Josh が Don't be shy! っていうんだよね。」などという、福井県の中学校はみんな New Horizon なので「あー！」という反応を楽しむことができる。(生徒も思い出しやすい/エピソード記憶で覚えられる)

③英語のパラフレーズ力が上がる。「この単語(文法)は未習だから使えない→こう書きかえればいい！」

④自分が普段考えていること、「こういうことを教えたい、知ってもらいたい」というトピックを future 高校生である中学生に読ませることができる。

⑤お友達が増える。ほかの学校のことを知ることができ、よい情報交換の場になる。

(長野県上田高 稲田 さとみ)

○現代を生きる中学生に知ってもらいたい情報や考えてもらいたい題材で英文を作るのが楽しく、自分自身も勉強になります。他の先生方も興味深い英文を作られるので、自分自身が考えさせられることも多くあります。

(武生東高 水谷 友梨)

○今年は、推しの音楽家で作った英文がよかったです。意見して下さった委員の方々やグループのメンバーに、深く感謝します。あと、趣味として、子音だけからなる単語を探しているのですが、会議中にそれが1つ見つかったことがうれしかったです。

(福井東特支 山口 直孝)

○昨年に続き、リーディングテスト委員会に参加させていただきます。昨年同様に、私が作成した英文を先輩の先生方からアドバイスを受け、修正できて大変有意義な時間を過ごすことができています。これからも精進していきたいと思っております。

(明倫中 水野 広隆)

- 毎年、新たな発見がある実りのある会です。また、題材選びの参考にもなり日々の授業の中で生かせるポイントが多いことも、この会の魅力です。今後も、ここで得られる学びを授業の中に還元していきたいと思います。
(義務教育学校 伊藤 江莉奈)
- リーディング委員会に関わるようになって20年あまり…。快く、そして前向きに参加して下さる先生方のおかげで、世代交代しながらもこんなにも長く続いていっていることに感謝しかありません。先生方の様々なアイデアに触れ、私も刺激を受けています。先日、3年生の女の子が、「先生、これ読んでいて良かったです。」と言ってくれました。生徒たちにとっても良い刺激となるような問題を、これからも作っていききたいですね。
(成和中 澤田 亜紀)
- リーディングテスト委員会に参加して4年目になりました。毎回の会議で他の先生方と英文を練り合う中で、様々な視点を得ることができ勉強になっています。自分だけではなかなか浮かばない視点を得ることができる良い機会であり、参加でき嬉しく思います。1年間、ありがとうございました。
(進明中 米澤 瑛里)

【今年度新メンバーより】

- 今回初めてリーディングテスト部会に参加させていただきました。これまで校内で作成してきた問題を検討する際には、文法のエラーチェックをすることにとどまっていた。リーディングテスト部会では「読み手に伝えたいメッセージ」を吟味し、問題作成に取り組んでいました。自らの問題作成のあり方を見直す良い機会であり、これを機に授業のあり方も見直すきっかけになりました。
(大東中 坂下 元)
- 今年度よりリーディング委員会に入りました。初任者の頃、テスト作成の際長文を作る難しさに直面し、もっとスキルを磨きたいと思い挑戦しました。今までの私では気づかなかった視点を教えてもらい、本当に入って良かったと思っています。
(芦原中 東 純麗)

◆TEFL委員会

委員長 百田 忠嗣 (三方中学校)

今年度の TEFL 委員会では、中学校と高校のギャップについてさまざまな角度から検討しています。異校種の教員が、互いの実践や日頃感じる問題点などを共有することで校種間のスムーズな移行につなげることを目的としています。そのなかで注目したのが「やりとりの活動」です。令和5年度英語教育実施状況調査では、福井県の中学校においては「授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合」で84.5%と高い結果でした。TEFL 委員が勤務する中学校、高等学校でも、年々言語活動のしやすさを感じています。その一方で、やりとりを行う際の文法面の正確性においては低下が感じられます。また、高等学校で、論理的思考を伴う活動をする際に、その素地を身に付けるのに時間がかかるという意見もありました。

これらの現状を踏まえ、授業でのやりとりに再度注目し、よりよいやりとりのために中高が連携できることは何かを考えたいと思います。また、意見や考えをまとめ、より深いものにするための手立てとして、マッピングやマンダラートなどの思考ツールの活用についても検討したいと考えています。

今年度の Bridging については、昨年度と同様に発刊する予定です。Bridging がより良いものとなるよう、ご意見等ありましたら、どんなことでも委員もしくは委員長あてにご連絡いただくと幸いです。

最後に、TEFL 委員会は嶺南を中心に活動しています。中高の教員が協働的に研究に取り組み、毎回会議ではとても良い刺激を得ることができています。自らの日々の教育実践に TEFL 委員会活動の内容をフィードバックするとともに、合本を通して福井県の英語の先生方に少しでも有益な研究内容を報告できればと考えています。

〈2024年度 TEFL 委員会 委員 (50音順)〉

釜谷 理永 (敦賀高校)	佐々木和桜 (若狭高校)	三仙 真也 (藤島高校)
武田 由貴 (敦賀高校)	本田 涼哉 (若狭高校)	松居 貴昭 (大野高校)
宮内 望 (松陵中学校)	百田 忠嗣 (三方中学校)	橋詰 夏美 (小浜中学校)

◆英語ディベート委員会

委員長 三 仙 真 也 (藤島高校)

英語ディベート委員会は第13回全国高校生英語ディベート大会 in Fukuiにおける運営委員会を母体とし2019年にスタートした。全県的なディベートの指導体制の確立および指導法のノウハウの蓄積のため、また全国高校生英語ディベート大会の開催で生まれた英語ディベート指導の流れと教員のネットワーク、システムを継続・発展させることを目的として活動している。

「英語コミュニケーション」や「論理・表現」の授業のなかで、活動の一環にディベートを採り入れている教員は多いだろう。私たちの活動を通して先生方や生徒がディベートに慣れ親しみ、授業でも積極的に活用していただければと考えている。ぜひ興味があれば委員長まで連絡いただきたい。

本年度も研修会は全てオンラインで行ったが、全国大会が対面で行われることに準じ、県大会は対面で実施することとした。学期制の違いなど、スケジュール上の理由から研修に参加できない高校があるなど若干のトラブルはあったものの、例年よりスムーズに各研修会を実施することができた。また大会では県外のジャッジにはオンラインでジャッジをお願いする「ハイブリッド」開催を行うことで、全国大会審判長や決勝ジャッジを歴任した方々に県大会からジャッジいただくことができた。

<令和6年度の主な活動>

- | | |
|-----------|--|
| 5～7月 | YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修 |
| 7月28日(日) | 第1回オンライン研修会【パーラ】練習試合 |
| 8月5日(月) | 第2回オンライン研修会【アカデ】練習試合 |
| 9月7日(土) | メイクフレンズカップ ジャッジミーティング |
| 9月15日(日) | 第6回メイクフレンズカップ in Fukui 運営 |
| 9月22日(日) | 第2回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合 |
| 10月24日(木) | 福井県高校生英語ディベート大会引率者・運営協力者会議 |
| 11月4日(祝) | 第17回福井県高校生英語ディベート大会(準備型) |
| 11月10日(日) | 第8回福井県高校生即興型英語ディベート大会 |
| 12月21日(土) | 第19回全国高校生英語ディベート大会 in 栃木
(帯同ジャッジ1名参加)(～22日) |
| 12月24日(火) | 第10回PDA全国高校生即興型英語ディベート全国大会(～25日) |

<英語ディベート参加高校と結果> ()内は出場チーム数

<p>【Make Friends Cup in Fukui】</p> <p>[参加校] 藤島 (3) 高志 (2) 武生東 (1) 小松 (2) 富山中部 (2) 兄弟社 (2) 守山 (1) 翔凜 (1) 葺合 (1) 川越女子 (1) 藤島の1チームはサブプリメントチームとして参加</p> <p>[団体成績] 1位 藤島B 2位 川越女子 3位 藤島C (下線の学校は全国大会出場権獲得)</p> <p>[個人成績] 1位 津田菜摘 (藤島A) 西村萌那 (藤島B) 園部璃南 (川越女子) 長岡真尋 (葺合) 5位 与保田悠人 (藤島B)</p>
<p>【準備型】</p> <p>[参加校] 藤島 (5) 高志 (4) 勝山 (1) 武生 (2) 武生東 (3) 敦賀 (2) 若狭 (1) 福井商業 (3) 仁愛 (3) 藤島の1チームはサブプリメントチームとして参加</p> <p>[団体成績] 1位 藤島B 2位 藤島A 3位 藤島C 4位 高志A 5位 高志B 6位 藤島E (下線の学校は新たに全国大会出場権獲得)</p> <p>[個人成績] 1位 長谷川りな (藤島B) 2位 佐藤美侑 (藤島B) 3位 野村咲奈 (藤島D)</p>
<p>【即興型】 Sapphire部門：経験者対象 Diamond部門：初心者対象</p> <p>Sapphire部門参加 藤島 (14) 高志 (6) 金津 (2) 武生 (3) 若狭 (1) 敦賀 (1) 足羽 (1) 福井 (2)</p> <p>Diamond部門参加 藤島 (1) 金津 (1) 羽水 (1) 鯖江 (2) 武生 (1) 敦賀 (1) 若狭 (1) 武生東 (2) 足羽 (1) 福井 (1) 仁愛 (2)</p> <p>Sapphire部門</p> <p>[団体成績] 1位 藤島D 2位 藤島A 3位 藤島C・藤島F</p> <p>[個人成績] 1位 安野顕生 (藤島D) 2位 西山倫加 (藤島C) 野村咲奈 (藤島F) 谷口愛 (藤島A) 林瑞希 (藤島D) 与保田悠人 (藤島A)</p> <p>Diamond部門</p> <p>[団体成績] 1位 仁愛女子A 2位 足羽B 3位 若狭B・鯖江A</p> <p>[個人成績] 1位 山田智加 (仁愛女子A) 2位 緩詰萌衣 (若狭B) 3位 山田実右 (金津C) 大西世愛 (藤島O) 森本ダニエラ (足羽B)</p>

<令和6年度 英語ディベート委員>

三 仙 真 也	藤島高等学校
松 居 貴 昭	大野高等学校
木 下 弥	鯖江高等学校
笹 木 英 俊	金津高等学校
西 川 智 康	高志高等学校
松 山 公 香	大野高等学校